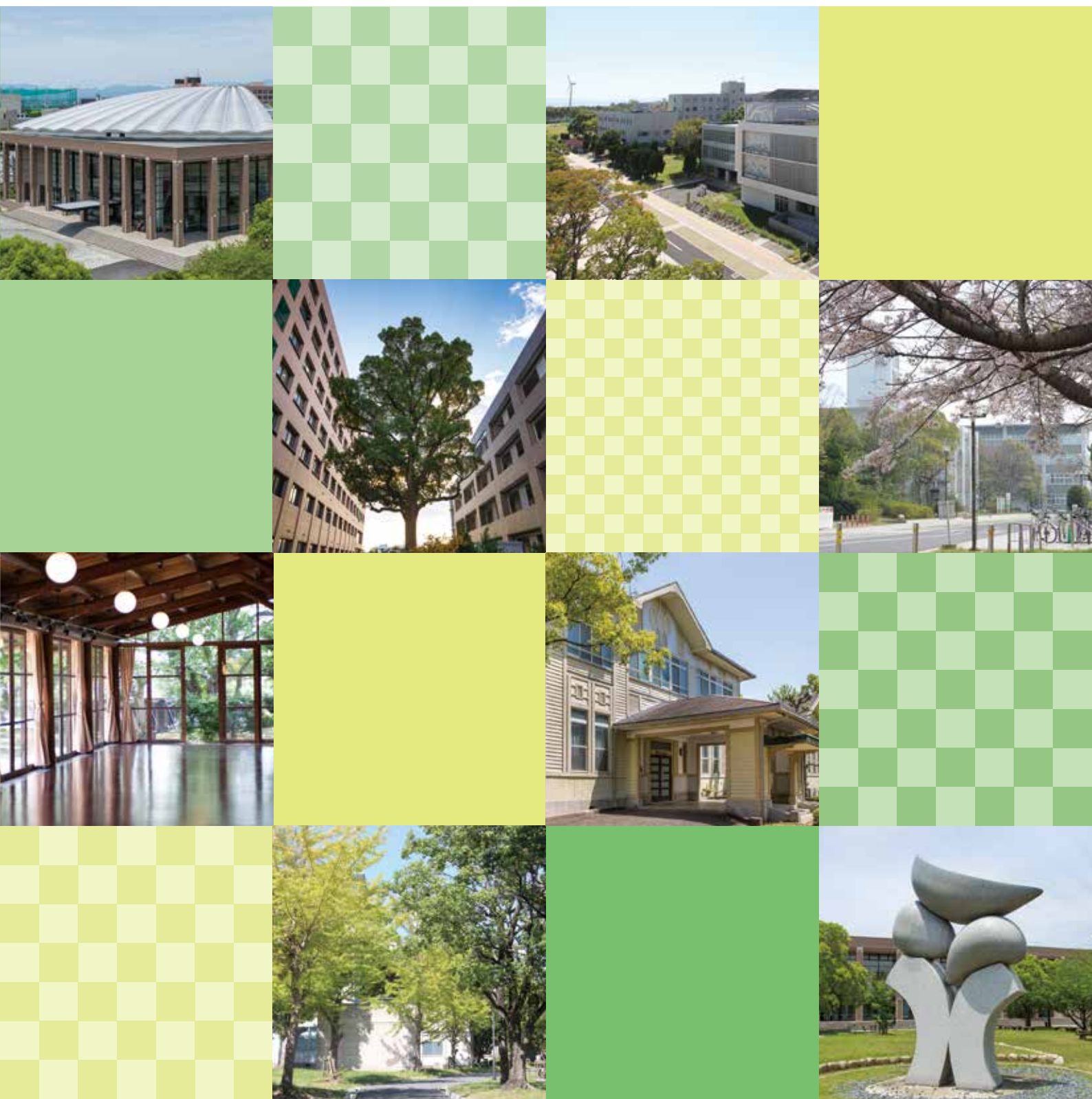


国立大学法人 三重大学概要2018

〈平成30年度〉



MIE UNIVERSITY



三重大学概略

(平成30年5月1日現在)

■ 役員	8名	■ 収入予算	42,428百万円
■ 教員	784名	■ 支出予算	42,428百万円
■ 職員	1,171名		※平成30年度
■ 学部学生	6,055名	■ 土地面積	5,511,692㎡
■ 大学院生	1,138名	■ 建物面積	322,553㎡
■ 留学生数	298名	■ 蔵書数	948,990冊
■ 海外大学間協定数	26力国・地域、66大学・機関		※平成30年3月31日現在
■ 海外大学学部間協定数	26力国、53大学・機関		

平成30年度学年暦

■ 学年開始	4/1	■ 後期開始	10/1
■ 春季休業	4/1~4/10	■ 冬季休業	12/22~1/6
■ 入学式	4/9	■ 学位記授与式	3/25
■ 三重大学記念日	5/31	■ 後期終了・学年終了	3/31
■ 夏季休業	8/7~9/30		
■ 前期終了	9/30		

目次

● 理念	3
● 三重大学を創る6つのビジョン	4
● 運営組織	5
● 組織図	6
● 沿革	7
● 役職員	9
● 学部・大学院(専攻・講座)等	11
● 教育研究施設	14
● 教育	15
● 研究	17
● 社会連携・地域貢献	18
● 国際交流	21
● 附属図書館	23
● 情報基盤	24
● 環境	25
● 医学部附属病院	27

《資料編》

● 職員数	29
● 平成30年度予算	30
● 平成29年度科学研究費助成事業及び民間等との共同研究等受入れ状況	30
● 学生の定員及び現員	31
● 教育学部附属学校の定員等	31
● 奨学生数	32
● 平成30年度入学志願者数及び入学者数	33
● 都道府県別入学志願者及び入学状況(学部)	33
● 平成29年度卒業生数・修了者数・学位授与数	34
● 平成29年度就職状況	35
● 産業別就職状況(学部)・地域別就職状況(学部)	35
● 都道府県別就職状況(学部)	36
● 外国人留学生数	37
● 平成29年度国際交流事業一覧(経費助成対象)	37
● 国際交流	38
● 附属図書館・附属病院	39
● 厚生保健施設等	40
● 土地・建物	40
● 地域との相互友好協力に関する協定等	41
● 公開講座等	41
● 三重大学地域貢献活動支援	42
● 三重大学リサーチセンター	42
● 部局等配置図	43
● 位置図	45
● 本学への交通案内	45
● 部局等所在地	46

三重大学は、伊勢湾の海、鈴鹿山脈・布引山地の樹々の緑、白い雲が浮かぶ大空に囲まれた美しい自然環境の中にあります。この素晴らしい自然に恵まれたキャンパスで、社会のリーダーとなる逞しい人材の育成、独創的で自由な発想に基づく高度な専門研究が活発に行われています。

現在の日本社会では少子高齢化、人口減少、グローバル化が凄まじいスピードで進みつつあり、都市部と地方との格差の広がり、エネルギー・環境問題の深刻化、景気・経済の不透明感など、多くの課題が指摘されています。このような困難な時代にこそ、「知の拠点」としての大きな期待が大学には寄せられています。三重大学は、その教育・研究成果を広く社会へと発信し、社会の発展・活性化のために精一杯の努力をしていきます。

学長 駒田 美弘



基本理念

三重大学は、総合大学として、教育・研究の実績と伝統を踏まえ、「人類福祉の増進」「自然の中での人類の共生」「地域社会の発展」に貢献できる「人材の育成と研究の創成」を目指し、学術文化の受発信拠点となるべく、切磋琢磨する。

三重の力を世界へ

地域に根ざし、世界に誇れる
独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。
～人と自然の調和・共生の中で～



この学章の様式は、文様として人生の実りを表す稲穂と、三重大学の理念である三翠（御空、波、森）を表すための浪輪（ROURIN）文様をアレンジした形態の二重リング構造。二つの文様を絡め二重リング構造としたのは、大学の理念と卒業生の人生の実りが永きに渡って良好な関係を持ち続けるようにとの願いを込めたもの。また、紋章は通常左右対称形が多いが、三重大学の自由で進取な校風を表す為敢えて左右非対称形とした。「SINCE1874」は三重大学の前身である師範学校の創立年であり、現状の5学部の前身中最も古いものである。

安心感のある運営と改革

- 学長のリーダーシップ
第3期中期目標に定められた“持続的な競争力と高い付加価値を生み出す大学の構築”と教職員の生活を守る大学運営に、リーダーシップを発揮します。
- 分析企画力の向上
IR（機関調査）機能を強化し、適切な業務分析に基づく透明性のある大学改革を前進させます。
- 財務基盤の強化
附属病院を効率的、安定的に経営し、大学の財務基盤を強化します。

社会の未来を創る高等教育

- 大学の役割の明確化
地域圏唯一の国立大学法人としての役割を明確化し、三重大学の強みを活かした教育研究活動を実践します。
- リーダーの育成
本学の教育目標に掲げる「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、「生きる力」を発揮し、社会を牽引する自立したリーダーを育てます。
- 高度専門職業人の養成
教養教育の充実とともに学部専門教育、大学院教育の進展を図り、高い教養を持って社会で活躍する高度専門職業人を養成します。

女性・若手に優しいキャリア支援

- 子育て世代に優しい職場環境
保育施設の整備、病児保育や学童保育の拡充、タイムシェアリングに取り組み、ワークライフバランスに配慮した家族と子どもに優しい環境を創ります。
- 女性教職員の積極的登用
女性の視点を大切にし、女性教職員のキャリア支援を推進します。
- 若手教職員の成長支援
テニユアトラック制度、研究支援体制、教職員の能力向上を目指すSD/FDを充実させ、若手教職員の成長を支援します。

大学発の地域イノベーション

- 地域活性化の拠点形成
地域活性化の中核的拠点機能の充実に向けて、地域イノベーションをさらに進展させます。
- 産学官民連携の推進
産業界や行政、NPOへの積極的な支援と地域大学間ネットワークの構築を推進し、知的財産の創造、技術革新の創出を実現します。
- 大学主導の地域創生
地場産業の振興、地域医療の充実、防災減災などの地域課題に取り組み、持続性のある魅力的な地域創生に貢献します。

多様で独創的な学術研究

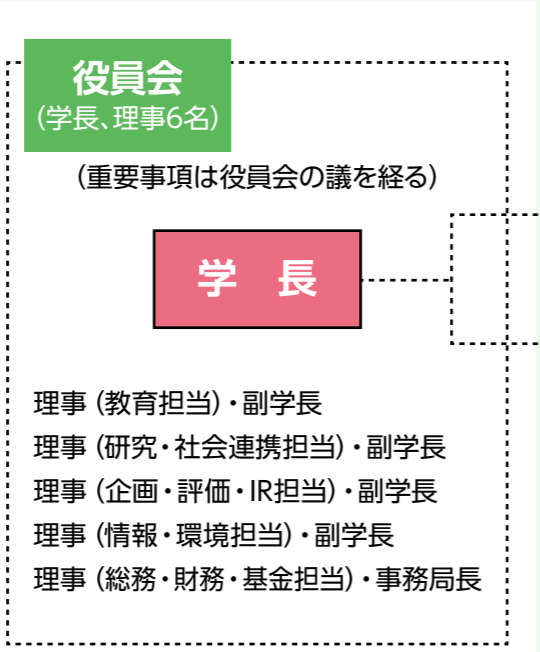
- 研究基盤の整備
日本の将来を拓く“研究の多様性”を維持し、研究者の持つ意欲・能力を最大化する研究実施基盤と研究費獲得基盤を整備します。
- 多分野融合型研究の活性化
総合大学の強みと中規模大学の機動力を活かした多分野融合型研究を活性化させます。
- 研究成果の社会への還元
研究成果を積極的に発信し、地域社会と国際社会の持続発展に寄与する大学を目指します。

自然と共生するグローバル・キャンパス

- 教育研究環境のグローバル化
外国人留学生獲得と外国人教員招聘、海外拠点形成を強化し、グローバル・キャンパスを実現します。
- 世界から評価される教育研究水準の達成
国際通用性のある教育、学生の留学、教職員の海外研修、国際共同研究を推進します。
- 自然豊かなグリーン・キャンパス
学生と外国人留学生が、自然豊かで快適な環境で共に学ぶグリーン・キャンパスを目指します。

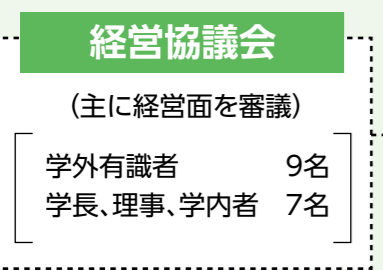


監事 (2名)

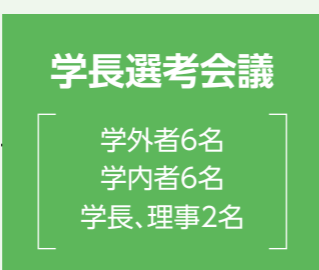
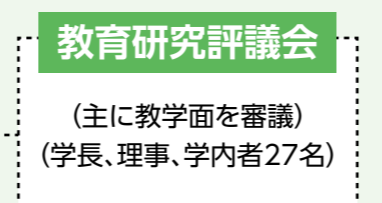


学長顧問 (2名)

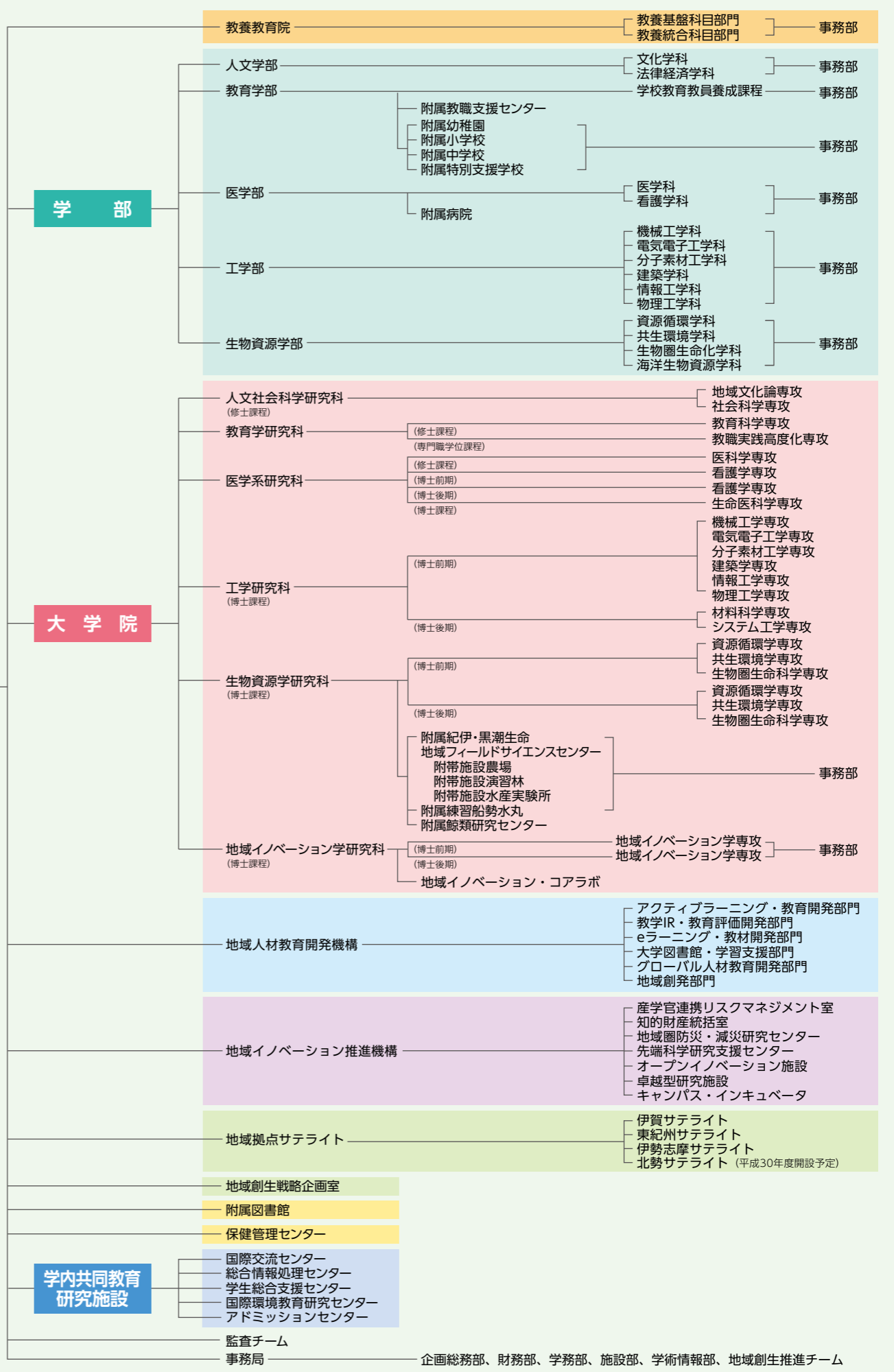
学長補佐 (6名)



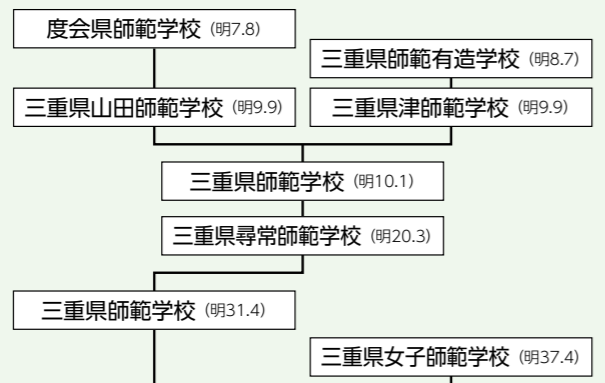
- 副学長 (教育・COC+担当)
副学長 (学生総合支援・インターンシップ担当)
副学長 (研究担当)
副学長 (社会連携担当)
副学長 (地域創生担当)
副学長 (国際交流担当)
副学長 (広報担当)
副学長 (危機管理担当)
副学長 (附属病院担当)



三重大学

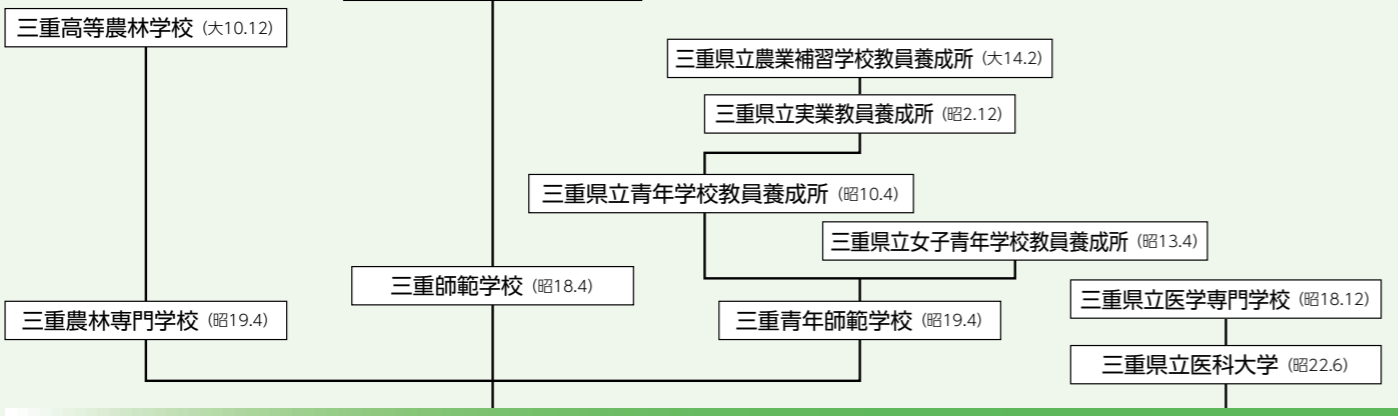


1874
明治7年

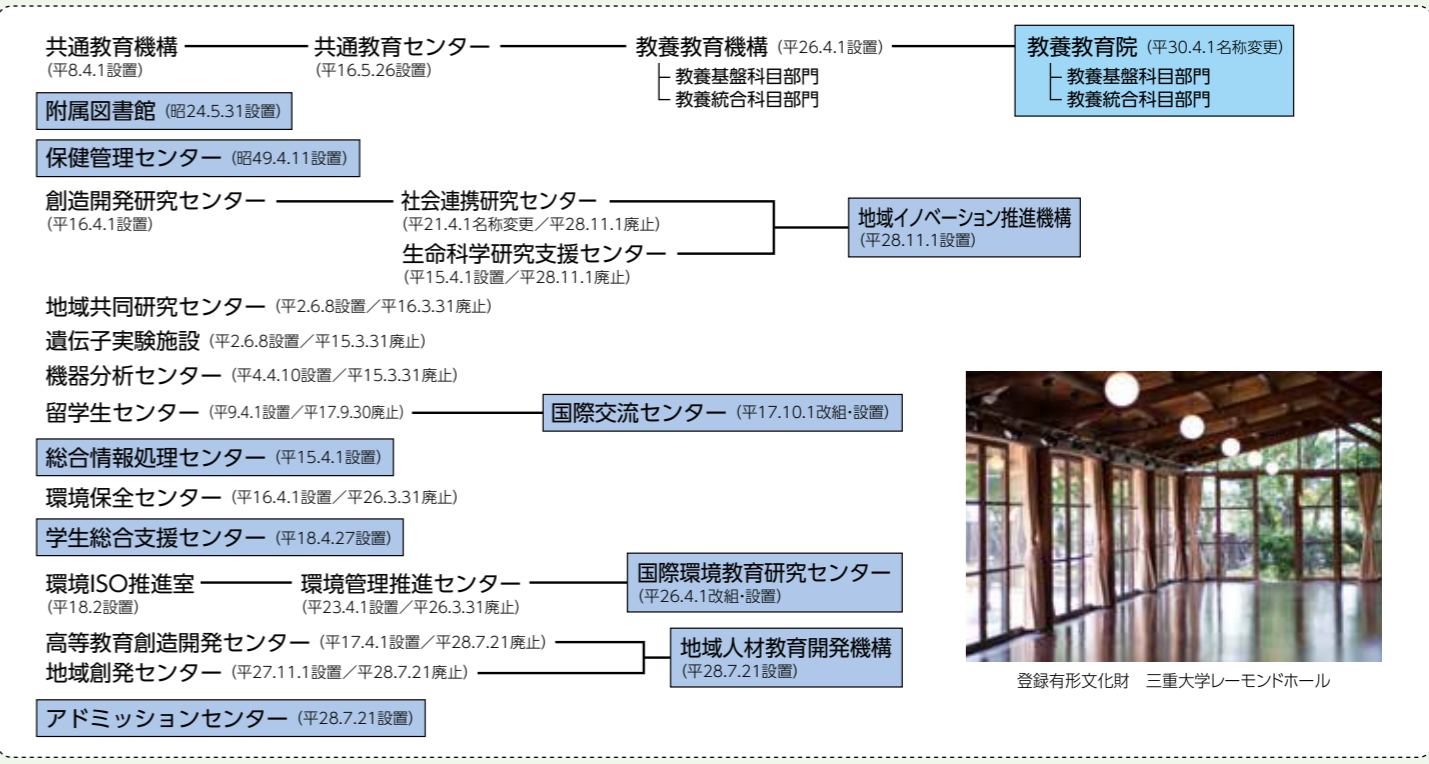


登録有形文化財 三重大学三翠会館

1912
大正元年



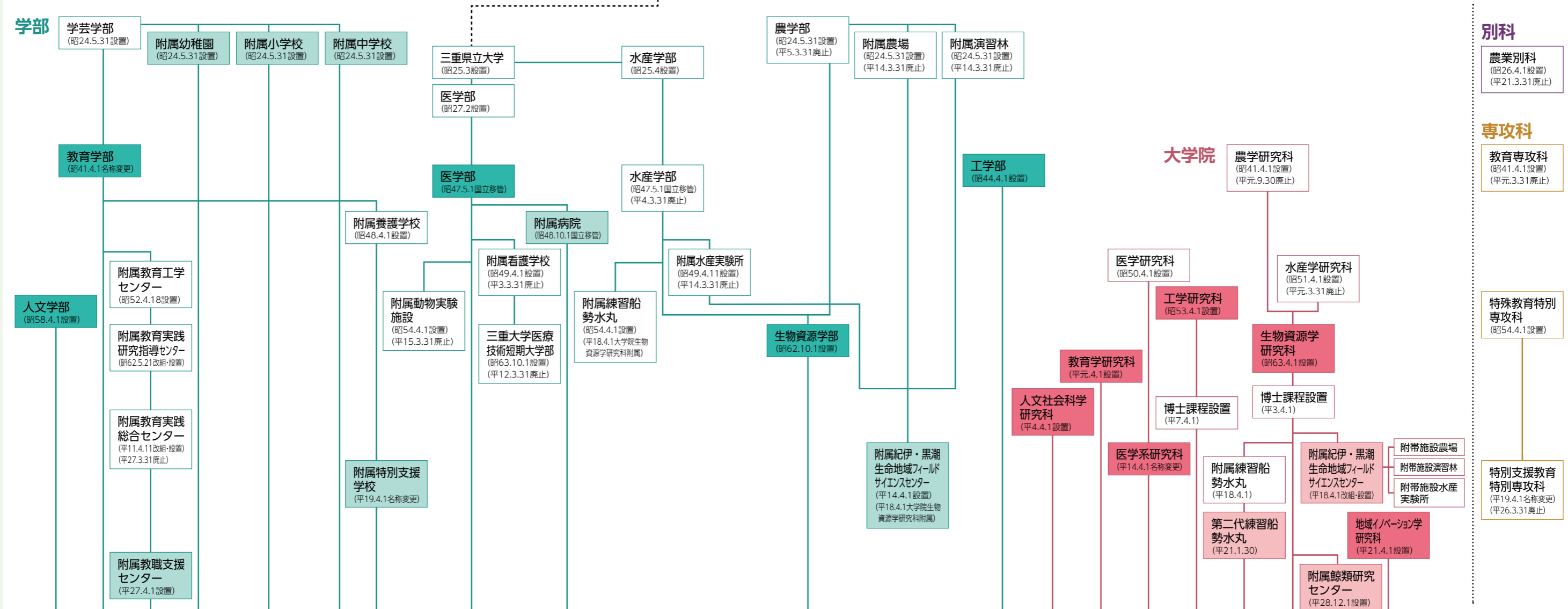
1945
昭和20年



登録有形文化財 三重大学レーモンドホール

三重大学 (昭和24年5月31日)

国立大学法人移行 (平16.4.1)





役職員

役員等

学長	駒田 美弘
理事(教育担当)・副学長	山本 俊彦
理事(研究・社会連携担当)・副学長	鶴岡 信治
理事(企画・評価・IR担当)・副学長	尾西 康充
理事(情報・環境担当)・副学長	加納 哲
理事(総務・財務・基金担当)・事務局長	尾藤 広幸
監事(業務監査)	服部 正興
監事(会計監査)・非常勤	山中 利之
副学長(教育・COC+担当)	富樫 健二
副学長(学生総合支援・インターンシップ担当)	野崎 哲哉
副学長(研究担当)	橋本 篤
副学長(社会連携担当)	西村 訓弘
副学長(地域創生担当)	松田 裕子
副学長(国際交流担当)	堀 浩樹
副学長(広報担当)	吉本 敏子
副学長(危機管理担当)	竹井 謙之
副学長(附属病院担当)	伊藤 正明

学長補佐

学長補佐(教務担当)	苅田 修一
学長補佐(インターンシップ担当)	川中 善晴
学長補佐(入試担当)	飯田 和生
学長補佐(研究担当)	富田 昌弘
学長補佐(国際交流担当)	吉松 隆夫
学長補佐(情報担当)	山守 一徳

学長顧問

学長顧問	内田 淳正
学長顧問	珠玖 洋

学長アドバイザー

学長アドバイザー	日高 弘義
学長アドバイザー	村田 吉優

経営協議会委員

(学内委員)	
学長	駒田 美弘
理事(教育担当)・副学長	山本 俊彦
理事(研究・社会連携担当)・副学長	鶴岡 信治
理事(企画・評価・IR担当)・副学長	尾西 康充
理事(情報・環境担当)・副学長	加納 哲
理事(総務・財務・基金担当)・事務局長	尾藤 広幸
医学部附属病院長	伊藤 正明
(学外委員)	
公益社団法人三重県医師会 会長	青木 重孝
三重テレビ放送株式会社 相談役	志田 行弘
三重県知事	鈴木 英敬
東京国立博物館 館長	銭谷 眞美
学校法人鈴鹿医療科学大学 理事長	高木 純一
株式会社光機械製作所 代表取締役社長	西岡 慶子
ICDAホールディングス株式会社 代表取締役社長	向井 弘光
公立大学法人三重県立看護大学 名誉教授	村本 淳子
株式会社百五銀行 代表取締役副頭取	渡辺 義彦

教育研究評議会評議員

学長	駒田 美弘
理事(教育担当)・副学長	山本 俊彦
理事(研究・社会連携担当)・副学長	鶴岡 信治
理事(企画・評価・IR担当)・副学長	尾西 康充
理事(情報・環境担当)・副学長	加納 哲
理事(総務・財務・基金担当)・事務局長	尾藤 広幸
副学長(教育・COC+担当)	富樫 健二
副学長(学生総合支援・インターンシップ担当)	野崎 哲哉
副学長(研究担当)	橋本 篤
副学長(社会連携担当)	西村 訓弘
副学長(地域創生担当)	松田 裕子
副学長(国際交流担当)	堀 浩樹
副学長(広報担当)	吉本 敏子
副学長(危機管理担当)	竹井 謙之
副学長(附属病院担当)・医学部附属病院長	伊藤 正明
教養教育院長	綾野 誠紀
人文学部長	安食 和宏
教育学部長	鶴原 清志
医学系研究科長	片山 直之
工学研究科長	畑中 重光
生物資源学研究科長	梅川 逸人
地域イノベーション学研究科長	三宅 秀人
人文学部教授	樹神 成
教育学部教授	藤田 達生
医学系研究科教授	緒方 正人
工学研究科教授	伊藤 智徳
生物資源学研究科教授	神原 淳

事務局

事務局長	尾藤 広幸
監査課長	水谷 聡子
企画総務部長	園邊 邦輝
総務課長	山下 郁夫
企画課長	紅林 孝彰
人事労務課長	木村 信之
財務部長	田中 賢一
財務課長	畑 盛斗
経理課長	井澤 克弘
契約課長	草川 雅彦
学務部長	中島 英雄
教務課長	山内 敏博
学生支援課長	草川 弥生
就職支援課長	富島 嘉夫
入試課長	稲垣 義一
地域人材教育開発機構課長	松原 行志
施設部長	草 一宏
施設企画課長	太田 剛
施設管理課長	橋本 健
施設環境課長	鈴木 律文
学術情報部長	室屋 守男
研究推進課長	竹内美佐子
社会連携課長	坂井 崇
情報・図書館課長	萩 誠一
国際交流課長	竹島 恒
地域創生推進課長	大畑 歩

教養教育院

院長	綾野 誠紀
副院長	野田 明
事務長	喜井 健二

地域人材教育開発機構

機構長	山本 俊彦
-----	-------

地域イノベーション推進機構

機構長	鶴岡 信治
-----	-------

地域拠点サテライト

統括者	駒田 美弘
-----	-------

地域創生戦略企画室

室長	駒田 美弘
----	-------

附属図書館

館長	加納 哲
----	------

各センター長

国際交流センター長	堀 浩樹
総合情報処理センター長	成瀬 央
学生総合支援センター長	野崎 哲哉
国際環境教育研究センター長	加納 哲
アドミッションセンター長	山本 俊彦
保健管理センター所長	竹井 謙之

人文学部

学部長	安食 和宏
副学部長	豊福 裕二
事務長	大西 則弘

教育学部

学部長	鶴原 清志
副学部長	伊藤 信成
事務長	森本 修一
附属教職支援センター長	新田 貴士
附属小学校長	松浦 均
附属中学校長	牧原 義一
附属特別支援学校長	八木 規夫
附属幼稚園長	松本 昭彦
事務長	鷹野 雅一

大学院医学系研究科・医学部

研究科長(兼：学部長)	片山 直之
副研究科長	山崎 英俊
副研究科長	堀 浩樹

医学部附属病院

平成30年7月1日現在

院長	伊藤 正明
副病院長	伊佐地秀司
副病院長	池田 智明
副病院長	須藤 啓広
副病院長	佐久間 肇
副病院長・看護部長	江藤 由美
副病院長	兼児 敏浩
副病院長	近藤 峰生
副病院長	山田 浩之
病院長補佐	竹内 万彦
薬剤部長	奥田 真弘
医学・病院管理部長	山田 浩之
総務課長	山崎 晴夫
経営管理課長	伊藤 敦士
学務課長	小林 浩司
医事課長	土屋 有司

大学院工学研究科・工学部

研究科長(兼：学部長)	畑中 重光
副研究科長	鈴木 泰之
事務長	水谷 隆志

大学院生物資源学研究科・生物資源学部

研究科長(兼：学部長)	梅川 逸人
副研究科長	松村 直人
副研究科長	徳田 博美
事務長	下 初
附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター長	平塚 伸
附属練習船勢水丸船長	前川 陽一
事務長	田中 正明
附属鯨類研究センター長	吉岡 基

大学院地域イノベーション学研究科

研究科長	三宅 秀人
副研究科長	小林 一成

歴代学長

初代	岡出 幸生	昭24. 5.31~昭32. 5.31
事務取扱	中野 清作	昭32. 6. 1~昭32.12. 9
2代	野村 武衛	昭32.12.10~昭41.12. 9
事務取扱	角谷辰次郎	昭41.12.10~昭42. 2.28
3代	野田 福吉	昭42. 3. 1~昭45. 2.28
事務取扱	井町 勇	昭45. 3. 1~昭45. 3.16
4代	野田 福吉	昭45. 3.17~昭46.11. 8
事務取扱	岩本 喜一	昭46.11. 9~昭47. 6.30
事務取扱	榎原 慎吾	昭47. 7. 1~昭49. 2. 9
5代	三上 美樹	昭49. 2.10~昭55. 2. 9
6代	井澤 道	昭55. 2.10~昭61. 2. 9
7代	武田 進	昭61. 2.10~平 4. 2. 9
8代	武村 泰男	平 4. 2.10~平10. 2. 9
9代	矢谷 隆一	平10. 2.10~平16. 3.31
10代	豊田 長康	平16. 4. 1~平21. 3.31
11代	内田 淳正	平21. 4. 1~平27. 3.31
12代	駒田 美弘	平27. 4. 1~



学部・大学院（専攻・講座）等

◎ 教養教育院

三重大学では全学生が教養教育科目と専門教育科目を履修します。
 教養教育院は教養教育科目を提供します。教養教育科目は、全学生が履修する「共通カリキュラム」と各学部が指定する科目を履修する「目的別カリキュラム」から成ります。

「共通カリキュラム」は「自律的・能動的学修力の育成」と「グローバル化に対応できる人材の育成」を理念とし、全学生が教養基盤科目（アクティブ・ラーニング、外国語、異文化理解、健康科学）と教養統合科目（地域理解・日本理解、国際理解・現代社会理解、現代科学理解）の中から定められた単位を履修します。

「目的別カリキュラム」として基礎教育やキャリア教育の科目も履修できます。



部 門
教養基盤科目、教養統合科目

◎ 人文学部・大学院人文社会科学研究所

人文・社会科学の教育及び研究を通じて、地域文化の発展に寄与するとともに、人間と社会の在り方を根底から探究し、問題の解決に主体的に取り組む人材を育成します。



人文学部（2学科・4講座／2コース）		
	学 科	講座／コース
学 部	文化	日本研究講座、アジア・オセアニア研究講座、ヨーロッパ・地中海研究講座、アメリカ研究講座
	法律経済	法政コース（統治システム履修プログラム・生活法システム履修プログラム）、現代経済コース（企業経営履修プログラム・地域経済履修プログラム）
大学院人文社会科学研究所（2専攻）		
	専 攻	
修士課程	地域文化論	
	社会科学	

◎ 教育学部・大学院教育学研究所

多様な分野からなる総合的な学部としての特長を生かし、人文・社会・自然科学を基礎とした発達や教育に関する深い専門性と職業人として十分な資質を備えた人材を育成します。



教育学部（1課程・13コース）		
	課 程	コ ー ス
学 部	学校教育教員養成	国語教育、社会科教育、数学教育・情報教育、理科教育、音楽教育、美術教育、保健体育、技術・ものづくり教育、家政教育、英語教育、特別支援教育、幼児教育、学校教育
大学院教育学研究所（2専攻・5教育領域／2コース）		
	専 攻	教育領域／コース
修士課程	教育科学	学校教育領域、特別支援教育領域、人文・社会系教育領域、理数・生活系教育領域、芸術・スポーツ系教育領域
専門職学位課程	教職実践高度化	学校経営力開発コース、教育実践力開発コース

◎ 大学院医学系研究科・医学部

確固たる使命感と倫理観をもつ医療人を育成し、豊かな創造力と研究能力を養い、人類の健康と福祉の向上に努め、地域及び国際社会に貢献します。



大学院医学系研究科			
	専 攻	講 座	教育研究分野
博士課程・修士課程	生命科学（博士課程）	基礎医学系	神経再生医学・細胞情報学、発生再生医学、機能プロテオミクス、幹細胞発生学、分子生理学、修復再生病理学、腫瘍病理学、統合薬理学、分子病態学、感染症制御医学・分子遺伝学、免疫学、医動物・感染医学、環境分子医学、公衆衛生・産業医学、法医学科学、医学医療教育学、免疫制御学、成育社会医学、動物機能ゲノミクス、遺伝子病態制御学
		臨床医学系	循環器・腎臓内科学、血液・腫瘍内科学、消化器内科学、呼吸器内科学、代謝内分泌内科学、神経病態内科学、リウマチ膠原病内科学、家庭医療学、精神神経科学、小児科学、皮膚科学、放射線医学・検査医学、臨床薬理学、肝胆膵・移植外科学、消化管・小児外科学、胸部心臓血管外科学、乳腺外科学、産科婦人科学、脳神経外科学、運動器外科学・腫瘍集学治療学、腎泌尿器外科学、眼科学、耳鼻咽喉・頭頸部外科学、口腔・顎顔面外科学、形成外科学、麻酔集中治療学、臨床麻酔科学、救急災害医学、病態解析内科学、新生児学、成育医学、健康増進・予防医療学
		（産学官連携講座）遺伝子・免疫細胞治療学	遺伝子・免疫細胞治療学
	医科学（修士課程）	（産学官連携講座）臨床創薬研究学	臨床創薬学
		（産学官連携講座）システムズ薬理学	システムズ薬理学
		（産学官連携講座）個別化がん免疫治療学	個別化がん免疫治療学
		（寄附講座）認知症医療学	認知症医療学
		（寄附講座）先進医療外科学	先端的外科技術開発学
		（寄附講座）スポーツ整形外科学	スポーツ整形外科学
		（寄附講座）先進画像診断学	先進画像診断学
（寄附講座）先進がん治療学	先進がん治療学		
		（多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン）放射線腫瘍学講座	放射線腫瘍学
医学部 2学科			
	専 攻	領 域	教育研究分野
博士前期課程	看護学	基盤看護学	看護教育学、実践基礎看護学
		実践看護学	がん看護学、成人看護学、母性看護・助産学、小児看護学、老年看護学
		広域看護学	精神看護学、ストレス健康科学、地域看護学
博士後期課程	看護学	看護教育学、実践基礎看護学、成熟期看護学、母子看護学、精神・ストレス健康科学、地域看護学	
医学部 2学科			
	学 科	講座又は学科目	
学 部	医学	解剖学、生化学、生理学、病理学、薬理学、分子病態学、微生物学、免疫学、医動物学、衛生学、公衆衛生学、法医学、医学医療教育学、内科学、神経内科学、家庭医療学、精神神経科学、小児科学、皮膚科学、放射線医学、検査医学、薬剤学、外科学、産科婦人科学、脳神経外科学、整形外科、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、口腔外科学、麻酔科学、救急災害医学	
	看護学	基盤看護学、実践看護学、広域看護学	

大学院工学研究科・工学部

工学の専門分野を教授することを通じて、知的理解力・倫理的判断力・応用的活用力を備えた人材を育成するとともに、科学技術の研究を通じて、自然の中での人類の共生、福祉の増進、および社会の発展に貢献することを目指します。



大学院工学研究科（8専攻・20講座）		
	専攻	講座
博士前期課程	機械工学	量子・電子機械、機能加工、環境エネルギー
	電気電子工学	電気システム工学、情報・通信システム工学、電子物性工学
	分子素材工学	分子設計化学、生物機能工学、素材化学
	建築学	建築デザイン、建築マネジメント
	情報工学	コンピュータサイエンス、知能工学
博士後期課程	物理学	量子工学、ナノ工学
	材料科学、システム工学	材料物性、材料化学、電気情報システム、設計システム、循環システム設計
工学部（6学科・15講座）		
	学科	講座
学部	機械工学	量子・電子機械、機能加工、環境エネルギー
	電気電子工学	電気システム工学、情報・通信システム工学、電子物性工学
	分子素材工学	分子設計化学、生物機能工学、素材化学
	建築学	建築デザイン、建築マネジメント
	情報工学	コンピュータサイエンス、知能工学
	物理学	量子工学、ナノ工学

大学院生物資源学研究科・生物資源学部

自然と人類の共生を図り、生物資源の適切な開発と利用を追求する学問を確立し、その基礎的、応用的な科学技術を教授・研究することによって、独創性と専門性を兼ね備えた人材養成を目指します。



大学院生物資源学研究科（前期課程：3専攻・9講座、後期課程：3専攻・6講座）		
	専攻	講座
博士前期課程	資源循環学	農業生物学、森林資源環境学、国際・地域資源学
	共生環境学	地球環境学、環境情報システム工学、農業土木学
	生物圏生命科学	生命機能化学、海洋生命分子化学、海洋生物学
博士後期課程	資源循環学	資源循環システム科学、国際資源循環科学
	共生環境学	気象・地球システム学、環境・生産科学
	生物圏生命科学	応用生命化学、海洋生物科学
生物資源学部（4学科、9コース）		
	学科	コース
学部	資源循環学	農業生物学教育コース、森林資源環境学教育コース、グローバル資源利用学教育コース
	共生環境学	地球環境学教育コース、環境情報システム学教育コース、農業土木学教育コース
	生物圏生命科学	生命機能化学教育コース、海洋生命分子化学教育コース
	海洋生物資源学	海洋生物資源学教育コース

大学院地域イノベーション学研究科

現代の産業社会、特に三重地域圏などの地方産業界で生じている社会ニーズと大学院における教育のかい離を打破し、地方の衰退を食い止められる人材を養成するために「地域イノベーション学研究科」を設置し、「プロジェクト・マネジメントができる研究開発系人材」および「地域にゼロから1を創造できるソーシャル・アントレプレナー人材」を育成し、地域社会に輩出します。



大学院地域イノベーション学研究科（2専攻・4ユニット）		
	専攻	講座
博士前期課程	地域イノベーション学	工学イノベーションユニット、バイオイノベーションユニット、社会イノベーションユニット
博士後期課程	地域イノベーション学	地域新創造ユニット

学内共同教育研究施設等

名称	設置目的及び研究部門等
地域人材教育開発機構	各部局との連携・協議を通して、三重大の教育目標の達成に向けた教育諸活動の創造・開発を推進するとともに、地方創生に資する地域人材育成の学位プログラム・教育の質保証に向けた取組みを支援することを目的とします。
地域イノベーション推進機構	地域イノベーションの推進に向けて、三重大が戦略的に展開する研究活動を支援・推進するとともに、三重大の教育研究資源を活用した成果の社会還元と、地域の発展に寄与する人材育成活動への支援を目的とします。
地域拠点サテライト	平成28年度から順次設置している「地域拠点サテライト」では、県内全域を三重大の教育研究フィールドと位置付け、多様な地域特性を有する4つの地域サテライト（伊賀サテライト、東紀州サテライト、伊勢志摩サテライト、北勢サテライト<平成30年度設置予定>）を展開しています。各地域サテライトにおいては、自治体・教育機関等との連携および協力のもとに、特色豊かな活動拠点が置かれ、教員や学生がフィールドワーク等の実践的な教育研究活動を行っています。 また、これら4つの地域サテライトが地元企業や自治体と大学を繋ぐハブ機能としての役割を担うことで、地域課題の発見・共有、共同研究・共同プロジェクト等を通じた課題解決等に全学的に取り組みながら、三重大の教育研究力の向上に加え、地域創生や地域の人材育成に貢献しています。
附属図書館	研究支援機能、学習支援機能、地域貢献機能を3本柱とする附属図書館は、隣接する環境・情報科学館とともに、知を獲得・創出し、共有する場となります。
保健管理センター	教職員及び学生の健康の保持増進を図るための専門的業務を行うところで、医師・保健師・看護師等が“こころ”と“からだ”両面の相談に応じています。また、定期的な健康診断も行っています。
国際交流センター	国際化推進事業及び国際教育を通じて国際的な課題の解決に貢献できる人材を養成し、三重大及び地域の国際化に寄与することを目的として設置され、海外大学との学術交流協定の締結、学生・研究者の派遣・受入、留学生・日本人学生への国際教育、部局の国際活動の支援等を行っています。
総合情報処理センター	教育システム、各種サーバーから、インターネットに接続されたキャンパスネットワークまでの多種多様な機器を管理運用することで教育、研究の支援を行います。またネットワークセキュリティの基礎を提供します。
学生総合支援センター	充実した学生生活の実現を図るため、学生の修学、就職及び生活等への支援を行います。
国際環境教育研究センター	上浜キャンパス（附属病院を除く）において、学生を中心とした環境マネジメントシステム（EMS）が国際標準規格（ISO14001:2015）に適合していることが確認され、平成28年11月19日、「ISO14001」を継続認証しました（初期登録平成19年11月）。現在は環境マネジメントシステムの継続的改善を図るとともに、「世界に誇れる環境先進大学」として環境教育・環境研究を推進し、大学の社会的責任（USR）を果たす活動を行っています。また、教育研究活動に伴い排出される廃水、廃棄物、大気汚染等の適切な管理運営を行い、公害を防止し、環境の安全確保を図ります。
アドミッションセンター	三重大が定める基本方針に基づき、高校教育及び大学教育の連続性と一貫性に立つ高大接続を推進するとともに、多面的かつ総合的な評価で構成する入学者選抜方法の開発と実現を通じ、地域に貢献する人材の育成に寄与することを目的とします。
博導連携推進室	博物館等との組織的な協力及び連携事業を推進することにより、地域における教育・研究のネットワークを発展させます。
男女共同参画推進室	学長を委員長とする男女共同参画推進委員会の下、同専門委員会及び学生委員会と共に、女性活躍推進、ワーク・ライフ・バランス及び次世代育成支援等に積極的に取り組んでいます。平成20年7月に「三重大男女共同参画宣言」を行い、平成25年10月に三重県の「男女がいきいきと働いている企業」認証を取得し、同年11月には三重県知事表彰「グッドプラクティス賞」を受賞しました。

学部附属教育研究施設

名称	設置目的及び研究部門等
教育学部附属教職支援センター	教員養成教育及び教師教育についての支援業務及び調査・研究の成果に基づく指導（教員養成支援部門、学校連携支援部門、研修開発支援部門、総合支援室）を行います。

大学院附属教育研究施設

名称	設置目的及び研究部門等
生物資源学研究科 附属紀伊・黒潮生命地域 フィールドサイエンスセンター	紀伊半島全域と黒潮流域に広がる山から海までの生態系を対象に、人間と自然との共生を目指す総合科学の実習教育・研究施設
附属施設農場	農地生産業務、果樹園芸業務、施設栽培業務、農産加工業務、機械・圃場管理業務、畜産管理業務、教育学部技術教育コースからなる農業及び地域環境の実習教育・研究施設
附属施設演習林	森林資源学並びに森林・地域環境保全の実習教育・研究施設
附属施設水産実験所	水産科学、海洋生物学並びに海洋環境保全の実習教育・研究施設
生物資源学研究科 附属練習船勢水丸	水産学・海洋生物学・海洋環境学に関する実習並びに研究調査
生物資源学研究科 附属鯨類研究センター	海洋生物資源としての鯨類の持続的利用に関する基礎から応用いたる研究を推進するための研究施設
地域イノベーション学研究科 地域イノベーション・コアラボ	高度専門職業人の育成及び大学の研究成果を社会に還元することを目的として、産学官連携による共同研究を実施する施設

「人と自然の調和・共生」を大切に、4つの力を育成

三重大学は、学術文化の発信・受信拠点として「人と自然の調和・共生」を大切にしながら、地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出すことを目指しています。そのために、「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、そしてそれらを総合した「生きる力」がみなぎり、地域に根ざし、国際的にも活躍できる人材の育成を目標にしています。この目標を達成するための全学的組織として地域人材教育開発機構が設置されており、その協力の下、教養教育院や各学部においてそれぞれの特色を生かした教育プログラムが展開されています。

地域人材育成推進会議

本学にとってのアドバイザーボードとして機能する会議であり、本学のステークホルダーから人材育成に向けた教育に対する助言や提言を得るために設置されています。助言や提言は、各学部・研究科における改革や地域人材教育開発機構による教育改善・教育開発に反映されます。

地域人材教育開発機構

地域人材教育開発機構は、アクティブラーニング・教育開発部門、教学IR・教育評価開発部門、eラーニング・教材開発部門、大学図書館・学習支援部門、グローバル人材教育開発部門、地域創発部門の6つの部門で構成し、全学と一体になって改革や改善をリードし新しい教育の方法を提起するファシリテイト機能やデザイン機能を重視し、カスタマイズ機能、サポート機能、コンサルティング機能に取組みます。

学生総合支援センター

「三重大学学生支援方針」に従って、学生たちの中に眠る宝を発見し、その宝が輝く姿を思い描き、夢実現のステップをデザインし、宝が輝くための支援をします。「学生生活支援室」、「障がい学生支援室」、「学生なんでも相談室」、「キャリア支援センター」では、専門的な技能をもった教職員たちによって支援活動が行われています。

教育目標

幅広い教養の基盤に立った高度な専門知識や技術を有し、地域のイノベーションを推進できる人材を育成するために、「4つの力」、すなわち「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、それらを総合した「生きる力」を養成します。

■ 「感じる力」

感性、共感、主体性

■ 「生きる力」

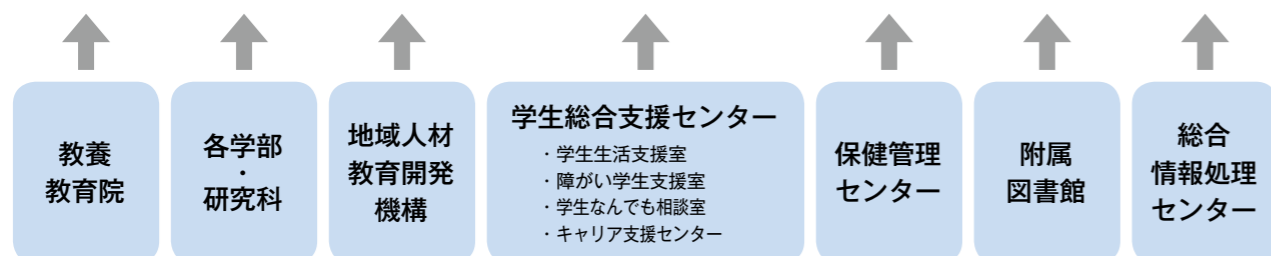
問題発見・解決力、心身の健康に対する意識、社会人としての態度・倫理観

■ 「考える力」

幅広い教養、専門知識・技術、論理的・批判的思考力

■ 「コミュニケーション力」

表現力（発表・討論・対話）、リーダーシップ・フォロワーシップ、実践外国語力



<p>アクティブ・ラーニング</p>	<p>スタートアップセミナー 入学したばかりの学生を対象に教養教育で開講される全学必修の授業です。この授業では三重大学の教育目標である「4つの力」に基づき、能動的学修態度を養います。グループごとに討論を重ね、問題発見からその解決までを行い、最後にプレゼンテーションを行います。コミュニケーション力の中では特に「聞く」「話す」に重点が置かれます。全国でも注目され、高い評価を受けています。</p> <p>教養ワークショップ 1年次後期に教養教育で開講される全学必修の少人数授業です。新書（論説文）を読み、グループでその内容を討論し、各自が書評にまとめ、さらに、書いた書評を互いに批評するという「読む」「書く」を中心とした授業です。自律的・能動的学修力をつけるためのこれまでに例のない新しい授業です。</p>
<p>グローバル人材育成</p>	<p>TOEIC等の活用によるコミュニケーション力向上 教養教育では、TOEIC IPテストを入学直後に行って習熟度別クラスで英語の授業を実施しています。英語の単位修得のためにはTOEIC IPテストで一定のスコアをとることが条件となっています。また、ドイツ語、フランス語、中国語の検定試験も単位認定や成績に反映されるようになっています。さらに、教養教育科目、専門教育科目で英語による授業を実施しています。</p> <p>英語特別プログラム 入学時TOEIC IPテストで優秀な成績を修めた学生は教養教育の英語特別プログラムに参加することができます。世界で活躍できる人材となることを目指して高度な英語の授業を受けるとともに、スタートアップセミナーや教養ワークショップに加えて教養統合科目の一部も英語で受講します。仕上げとしてイギリスへの海外研修に参加します。</p>
<p>キャリア教育</p>	<p>キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム キャリア力形成のための初級・上級資格（学内資格）取得を促し、就職に向けて広い実践力を身につけるよう取り組んでいます。プログラムを修了した学生は、ピアサポーターとして学生のキャリア教育を支援する活動を行います。</p>
<p>PBL教育</p>	<p>少人数の課題探求型学習形態であるPBLを全学的に展開し、教養教育科目及び各学部での専門科目において活用しています。この教育方法では、グループで能動的に課題の解決に取り組むことにより、コミュニケーション能力が高まり、深く本質的な理解に到達することができます。</p>
<p>eラーニング</p>	<p>本学の教育に合わせたMoodleやeポートフォリオなどの授業支援システムや、TOEICオンライン学習システムなどを導入し、総合情報処理センターの協力のもと、eラーニングを活用した能動的な学習の促進を行っています。Moodleでは、授業時間外における教員・学生間のディスカッションや課題の提出を行うことができ、eポートフォリオでは学生自身が日々学んだことを記録したり省察したりすることができます。</p>
<p>JABEE (日本技術者教育認定機構) 認定の 教育プログラム</p>	<p>日本技術者教育認定機構（JABEE）は、専門技術者を育成する教育課程が国際社会の要求水準を満たしていることを認定する公的機関です。本学では現在、生物資源学部（共生環境学科農業土木学講座）の教育プログラムが同機構から認定を受けています。工学部（電気電子工学科、建築学科）、および生物資源学部（生物圏生命科学科）も過去に受審申請して認定を受けた経歴があるなど、本学の技術者教育は国際的に通用する水準で行われています。</p>
<p>社会貢献</p>	<p>高校との教育連携事業の推進（高大連携） 三重大学では、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業及びスーパーグローバルハイスクール（SGH）事業の推進に貢献しています。また、高校との教育連携推進のための交流会、推進会を継続的に開催し、高校生を対象とした公開授業（東紀州講座）及びサマーセミナーを開講するとともに、単位認定も行う高大連携授業を実施しています。このほか、本学教員による高校への「出前授業」も行っており、平成29年度は約90回、延べ3,700人の高校生に講義を行いました。</p> <p>教員免許状更新講習 教員免許の更新のために義務づけられている「教員免許状更新講習」を文部科学省の認定のもとに開催しています。平成29年度は139講座を開講し、延べ約3,100人が受講されました。</p> <p>市民向け公開講座など（P41参照） 教養教育院や各学部が主催して市民向け公開講座を開講したり、「みえアカデミックセミナー（三重県生涯学習センター）」等に本学教員が出講しています。また三重大学で開講している授業のうちの約50科目は「市民開放授業」としており、例年約50名が受講されています。</p>



多様で独創的な研究を充実させ、社会に成果を還元

三重大学は、多様な独創的応用研究と基礎研究の充実を図り、さらに固有の領域を伝承・発展させると共に、総合科学や新しい萌芽的・国際的研究課題に鋭意取り組み、研究成果を社会に積極的に還元します。

地域の課題を探求するならば、それが狭い研究分野の枠に収まり切るなどということは決してなく、本学の研究が産業へ、経済へ、社会へと通じ、また自然へ、歴史へ、文化へと連なっていく。これこそが、私たちの本当の未来の姿を描き出す研究の動機であり契機となります。

三重大学は、各種学問の横断的総合体として、地域との強い絆を持ち続けます。

なお、本学の研究活動の発展と推進、研究成果の教育への反映等を目的として、平成21年度から、「研究推進戦略室」を設置し、部局間及び他大学等との研究の連携・協力、研究環境の整備・改善、競争的資金獲得の推進等を図っており、平成23年度から、新産業創成研究拠点、研究展開支援拠点（みえ“食発・地域イノベーション”創造拠点のひとつである食品素材探索ラボを含む）を設置しました。

● 研究の主な取組 ●

三重大学研究支援事業

- (1) 研究カステップアップ支援事業（Ⅰ）
- (2) 研究カステップアップ支援事業（Ⅱ）
- (3) 若手研究支援事業

- ◎独自性・地域性・発展性のある優れた個人研究の推進
- ◎グループによる重点課題へのプロジェクト研究の推進
- ◎独自性豊かな優れた研究の底上げ
- ◎優れた若手研究者が実施する研究の推進

卓越型リサーチセンター

- ◎三重大学リサーチセンターのうち、本学が重点的に研究に取り組むセンターを「卓越型リサーチセンター」として認定
- ◎「卓越型リサーチセンター」には、資金や研究スペースを提供して組織的な研究支援を実施

三重大学リサーチセンター

- ◎分野横断または特定分野の独創的な研究者グループによる新たな視点を持った研究の推進
- 一覧はP42を参照
(<http://www.mie-u.ac.jp/research/>)

地域政策との協働

- ◎薬事・健康・福祉産業の振興（みえメディカルバレープロジェクト）
- ◎次世代電池、メカトロ・ロボット産業の振興
- ◎環境・自然エネルギー産業の振興
- ◎地域防災への協力・支援
- ◎地域との連携強化（地域拠点サテライト、地域創生戦略企画室、尾鷲三重大学連携室、多気町連携地域戦略室、志摩市・立命館・三重大学連携室等）
- ◎本学を含む東海圏の6国立大学法人のコンソーシアムによる、南海トラフ巨大地震を克服

地域の大学や研究機関との連携

- ◎大学：鈴鹿医療科学大学、朝日大学、和歌山大学、立命館大学等
- ◎連携大学院：野菜茶業研究所、増養殖研究所、森林総合研究所関西支所、労働安全衛生総合研究所、医薬基盤研究所、三重中央医療センター、三重病院等

教育と研究を通して地域と連携

三重大学は、教育と研究を通じて地域づくりや地域発展に寄与するとともに、地域社会との双方向の連携を推進します。地域に根ざした知の支援活動と、産学官民連携の強化と推進を図ります。

社会連携

三重大学では、自由で独創的な知の創造という大学の教育・研究の特性に根ざした、産・学・官・民の連携交流の拠点を整備することにより、社会的に貢献し得る新たな知を科学と技術の両面にわたって創造することが、大学の活性化と社会への寄与に極めて重要な意義を持つものと考え、社会連携活動を活発に取り組んでいます。

一方、青少年や一般社会人向けの啓発関連事業として、青少年のための科学の祭典、伊賀研究拠点でのこども大学や伊賀連携フィールドでの忍者学講座、四日市フロントによる企業防災・BCP策定セミナーなど、また、社会人等を対象としたみえ防災塾、MOT（技術経営）講座などによる実践教育を行っています。

平成21年度からは、独立大学院「地域イノベーション学研究所」を設置し、共同研究を通じた実践的人材育成を行い、地域産業界の核となる人材の輩出を目指しています。

また、平成23年4月に「地域戦略センター（現：地域創生戦略企画室）」を設置し、地方自治体との連携によって、地域が抱える産業育成、地域振興、観光政策、環境政策等の諸問題に対する政策提言等を行う活動を開始したほか、平成25年4月からは、地域圏防災・減災研究センターを設置し、三重県を中心とした地域圏における防災及び減災に関する研究、教育、社会連携の推進及び災害医療への寄与にも取り組んでいます。

地域自治体との連携・協力協定

三重大学では、三重県の地域創生戦略の一つとして、県内全ての自治体（29市町）との協定締結とプロジェクトの実施を目指して取り組んでおり、協定締結については、平成28年度に県内全市町との協定締結を実現しました。今後は、三重県はもとより既に協定を締結している県内各市町とも、それぞれの協定に基づいて、地域創生の実践に関する諸課題への的確な対応や、三重大学における教育研究、各市町における地域振興に資するプロジェクトについては、オール三重大学のもと、より厚い連携・協力によって責任を持って実施していきます。

地域貢献型研究

三重県、伊勢湾、紀伊半島等の地域の諸問題をテーマにした様々な学際的研究を推進するとともに、地域に向けた各種シンポジウム、フォーラム等を開催しています。

また、地域貢献活動の創造及び推進を目的に、本学の教職員を代表者とする教育・研究に基づく自主的な活動を「三重大学地域貢献活動支援事業」として助成支援し、全学で地域貢献活動に取り組んでいます。



成果発表会「Jr.ロボコン2016 in 三重」の様子
「三重県において「未来の科学技術イノベーター」を育成する産学官連携プログラムの開発について」
教育学部 教授 魚住 明生



木育ゲームの説明の様子
「東紀州サテライトを拠点とした熊野地域の小中高の児童・生徒に対する「木育」プログラムの開発と実施」
地域拠点サテライト 山本 康介

共同研究

民間等との共同研究や受託研究に加えて、学部・研究科を超えた学際的共同研究、国内大学間共同研究、国際的な共同研究など三重大学の研究の特色を生かした幅広い共同研究が行われています。特に地方公共団体や地域企業との共同研究は活発に行われ、地域中小企業との共同研究においては全国上位の実績を挙げており、地域の発展に大きく貢献しています。地域イノベーション推進機構、(株)三重ティーエルオーが、各部局と連携して、大学の持つ研究シーズと民間企業等のニーズのマッチングによる共同研究を推進しています。

知的財産創出

三重大学独自の知的財産の拡大を図ることを目的として知的財産統括室を設置し、知的財産の創出から特許等の出願、管理、活用までの業務を一元的に推進しています。権利化された知的財産は、(株)三重ティーエルオーとも連携しながら民間企業等への技術移転を図っています。また、知的財産に関わる啓発、教育の他、県内の知的財産中核人材及びものづくり知的創造人材の育成を行っています。

全学シーズ集の提供・公開

三重大学の知的財産（研究成果）を活用して、地域産業との共同研究の活性化を図り、地域との社会連携を推進するため、三重大学教員約700人の研究シーズを、学外者に向けて分かりやすく解説するとともに、教員の研究への熱い思いもこめた「三重大学全学シーズ集」を本学ホームページで公開しているほか、CD-ROMも配布しています。（<http://www.crc.mie-u.ac.jp/seeds/>）

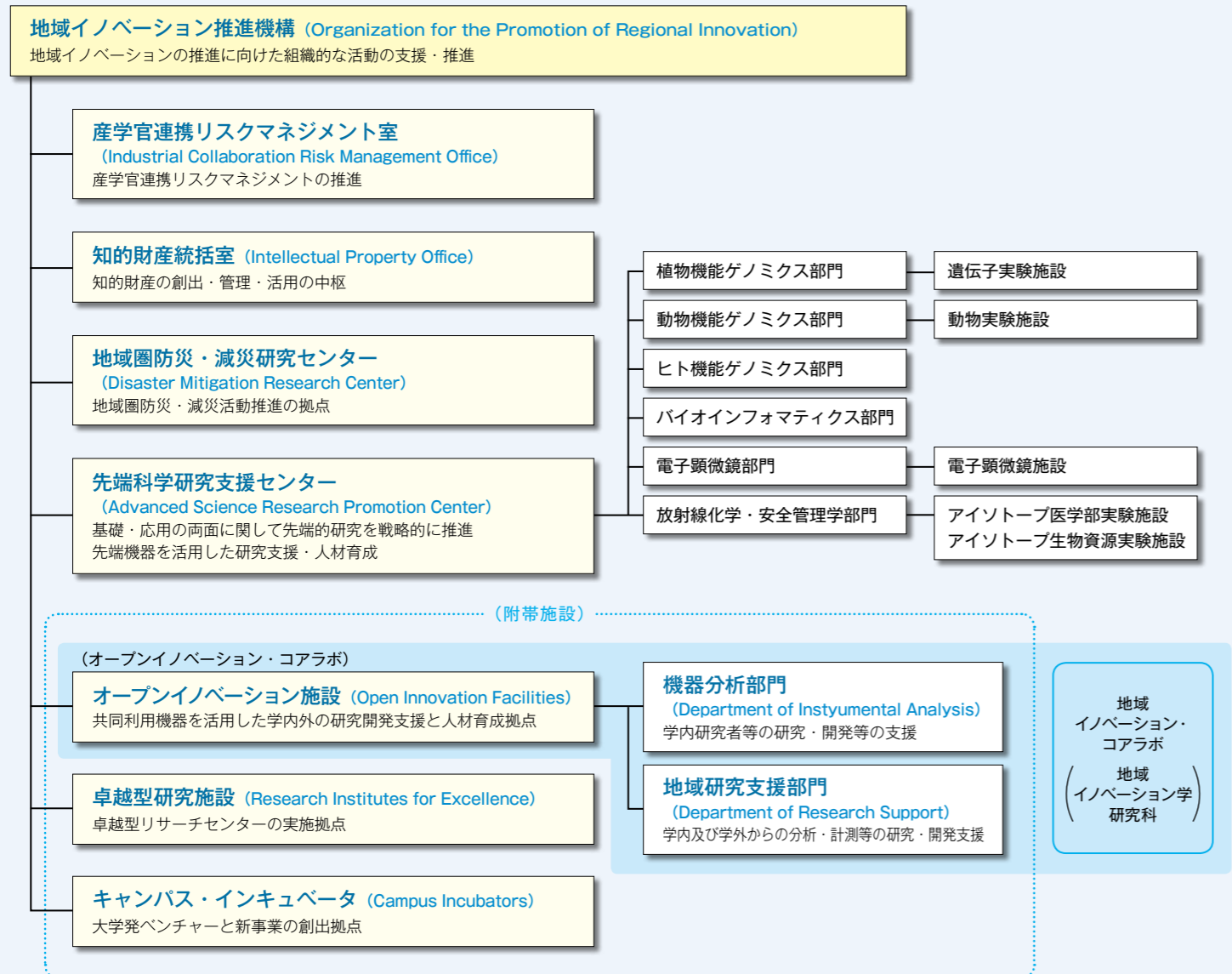
推進体制

地域イノベーション推進機構

地域イノベーション推進機構は、生命科学研究支援センターと社会連携研究センターを発展的に統合し、平成28年11月1日に発足した組織です。

地域イノベーション推進機構は、産学官連携の推進に伴い生じるリスク管理に取り組む「産学官連携リスクマネジメント室」、三重大学発となる知的財産の創出・管理・活用に取り組む「知的財産統括室」、地域の防災・減災活動を支援・推進する「地域圏防災・減災センター」、イノベーションの素となる先端科学研究を支援・推進する「先端科学研究支援センター」、共同利用機器を活用した学内外の研究開発支援・人材育成に取り組む「オープンイノベーション施設」、本学が認定する卓越型リサーチセンターの実施拠点となる「卓越型研究施設」、大学発ベンチャーと新事業の創出拠点となる「キャンパス・インキュベータ」を整備しています。

これらの体制を基に、学内の研究者のみならず、地域の方々からの技術相談や研究開発に関する様々なご要望に対して、学内外の研究者の交流を深めつつ、地域イノベーションの推進に向けた三重大学独自の活動を展開しています。



地域創生戦略企画室

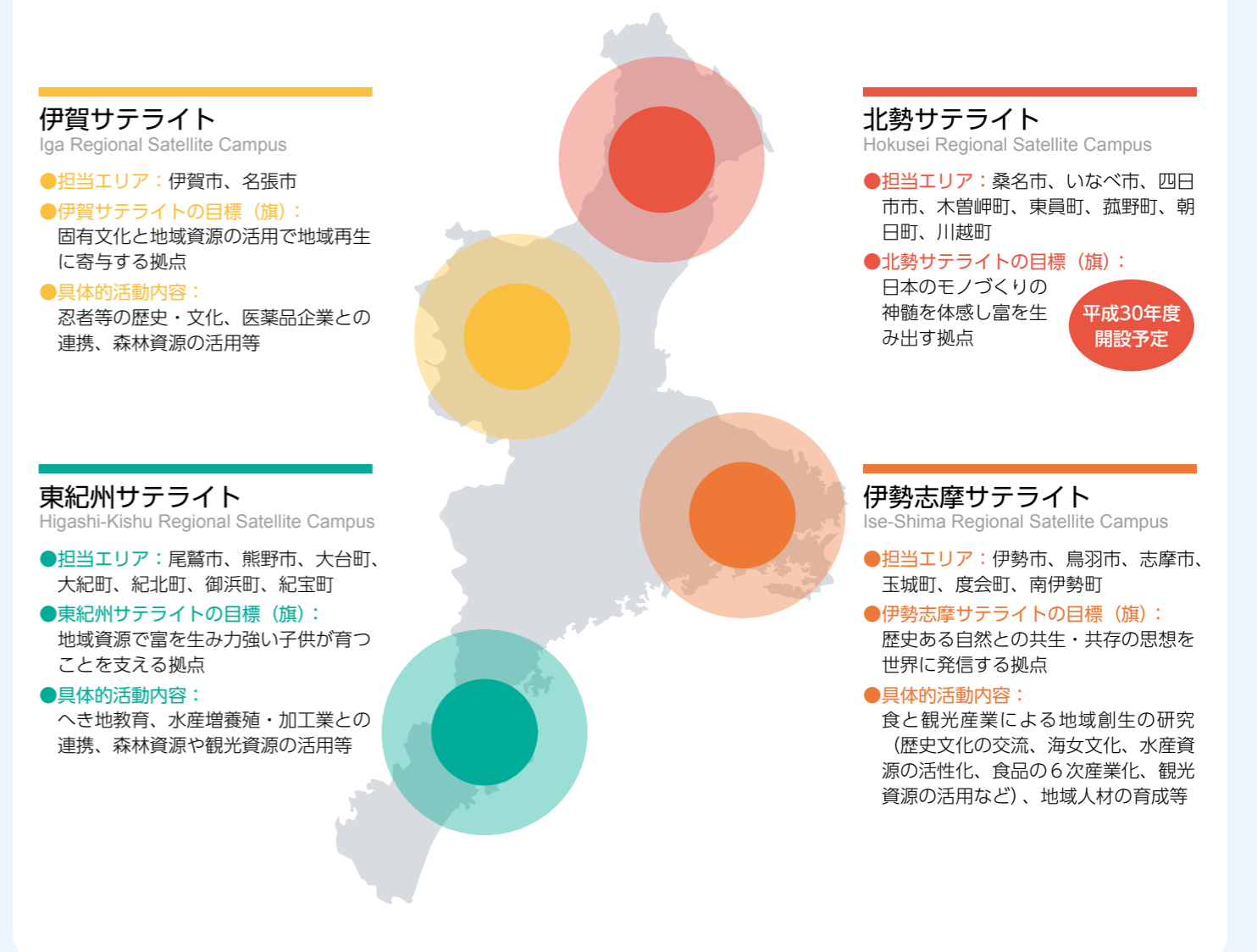
地域貢献型大学を掲げる三重大学は、教育力・研究力の強化と深化を図るとともに、教育研究成果を積極的に社会に還元し、地域創生に寄与することを重要な使命と位置付けています。この使命を具現化するため、平成30年4月、本学の本部機能として「地域創生戦略企画室」を設置しました。

この地域創生戦略企画室では、地域創生に向けて、学長のリーダーシップの下、本学が地域の企業や自治体等との組織対組織による戦略的なプロジェクト（地域創生プロジェクト）を企画・展開します。また、この地域創生プロジェクトに学内の教職員・学生、あるいは地域の企業や行政職員が参画することで、地域共創を牽引する基幹人材の育成を目指します。

地域拠点サテライト

平成28年度から順次設置している「地域拠点サテライト」では、県内全域を三重大学の教育研究フィールドと位置付け、多様な地域特性を有する4つの地域サテライト（伊賀サテライト、東紀州サテライト、伊勢志摩サテライト、北勢サテライト（平成30年度設置予定））を展開しています。各地域サテライトにおいては、自治体・教育機関等との連携および協力をもとに、特色豊かな活動拠点が置かれ、教員や学生がフィールドワーク等の実践的な教育研究活動を行っています。

また、これら4つの地域サテライトが地元企業や自治体と大学を繋ぐハブ機能としての役割を担うことで、地域課題の発見・共有、共同研究・共同プロジェクト等を通じた課題解決等に全学的に取り組みながら、三重大学の教育研究力の向上に加え、地域創生や地域の人材育成に貢献しています。





= From MIE to the World = To form global human resources rooted in the community

国際ジョイントセミナー&シンポジウム

国際ジョイントセミナー&シンポジウムは、英語による研究発表と国際交流を提供する場で、平成6年から三重大学(日本)、チェンマイ大学(タイ)、江蘇大学(中国)の3大学がホスト大学となって交代で主催してきており、平成23年度からは新たにポゴール農科大学(インドネシア)がホスト大学として参加しています。平成29年の第24回大会は、本学で開催され、人口、食料、エネルギー、環境、子どもをテーマに学生の英語による研究発表と国際交流が行われました。



コンセクティブディグリープログラム(接続学位制度)

三重大学は天津師範大学とコンセクティブディグリープログラム(接続学位制度)を実施しています。

このプログラムは、天津師範大学の日本語学科の学生20名(従来のダブルディグリー制度の学生)を、さらに選抜して来日した後、大学院の入学試験(各研究科で実施)を3月までに受け、合格者は大学院に10月入学するプログラムです。

高い日本語レベルと国際感覚を備えたグローバルな人材を育成します。

ミッション

- ① 高いレベルの日本語を習得
- ② 専門知識の習得
- ③ キャンパスの国際化

ダブルディグリープログラム(複数学位制度)

三重大学は海外の大学と学位授与に関する協定を結び、両大学の学生が双方の大学に在籍し、必要な単位を取得するダブルディグリープログラムを、大学院レベルでスリウィジャヤ大学及びバジャジャラン大学(インドネシア)との間に実施しています。

国際感覚、広い視野と専門知識を備えたグローバルな人材を育成します。

ミッション

- ① 双方の大学の学位を修得
- ② 異文化体験を通じて国際感覚を養う
- ③ 海外体験を通じて実践的な語学能力の向上
- ④ キャンパスの国際化を加速

国際キャリアアッププログラム

世界で活躍できるグローバル人材を育成するために、以下の取り組みを行っています。

- ▶ **海外短期研修**：マレーシア、ベトナム、カナダなどで研修を実施しています。昨年実績(マレーシア・タチ大学研修、ベトナム・フィールドスタディ、カナダ・UBC海外語学研修)
- ▶ **留学希望者のための語学講座**：交換留学を希望する学生のために、TOEFLやIELTSのスコアアップを目的とした語学講座を名古屋大学他と連携して実施しています。
- ▶ **サバイバル日本語講座**：日本での生活に困らないよう外国人留学生・外国人研究者を対象とした日本語講座を実施しています。
- ▶ **フィールドスタディ**：海外の協定校を訪問し現地学生と交流することで、異文化体験や国際理解を深めています。
- ▶ **様々な交流プログラム**：留学についての勉強会や留学生との交流会等、イベントなどを通じて、コミュニケーション能力や異文化理解能力を高める機会を提供しています。



外国人研究者招へい

三重大学では、日本学術振興会外国人特別研究員制度等、協定締結校を中心に外国人研究者の招へいを行っており、平成29年度には23名の外国人研究者を招へいしました。さらなる国際化教育や共同研究の促進を図るために、平成26年度からは、新たに大学独自の外国人教員短期招へいプログラムを開設しました。

教育・研究活動を通じた国際貢献

三重大学では「三重の力を世界へ」のモットーの下、アジア・アフリカをはじめとする開発途上国の発展に資する国際貢献事業にも積極的に取り組んでいます。これまで延べ132名の三重大学教員が国際協力機構(JICA)専門家として開発途上国に派遣されている他、アフガニスタンからの留学生の受入事業や、フィジー共和国での離島開発支援等の国際協力プロジェクトを実施しています。



地域の国際化支援

外国人の比率が全国で5番目に高い三重県の国際化・国際交流を支援するため、教員や留学生等の教育機関への派遣等を通じて、多文化交流授業、外国人向け日本語教育支援、留学生のホームステイ事業等の多文化交流プログラムを実施しています。

国際交流ディズ

留学生と日本人学生の国際交流行事として、様々なイベントを実施し、さらなる三重大学の国際化を図ることを目的としています。昨年度は、留学生の書道体験会、世界の料理作り、海外の映画鑑賞会、スポーツ大会、十二単衣装体験、エチオピア水墨画展、JICA世界民族衣装展、留学生伝統芸能・文化交流会など、様々な行事が開催されました。留学生との交流会では、邦楽部の演奏、留学生たちによるインドネシア舞踊、タイ舞踊、アフガニスタンダンス、三重大学応援団の演舞などのパフォーマンスが行われました。

海外の同窓会を通じた交流

三重大学へ留学した学生が帰国後、同窓会を作り各地で活躍しています。定期的に交流会を開催し情報交換を行っています。



留学生への日本語・日本文化教育

留学生に対し、日本語・日本文化教育を行っています。個々のニーズと日本語能力に応じて初級から上級まで5つのコースの授業を受講することができるほか、6か月集中で日本語能力をつける日本語研修初級コースもあります。また、平成21年度から地域の外国人も受講できるように日本語の授業の一部を市民開放授業として実施しています。

奨学制度

三重大学では学業成績が優秀な学生に対して、海外留学、本学が実施する国際交流事業への参加、海外協定校からの短期留学及びダブルディグリープログラムによる派遣などに対して充実した国際交流特別奨学生制度を設けています。また、海外の協定校から優秀な奨学生を安定的に確保することを目的とした優遇制度として、入学金と授業料を免除するなど、留学しやすい環境を整えています。そのほか、私費留学生がより良い環境で学習に集中できるよう、文部科学省、日本学生支援機構、民間団体等の奨学金情報を提供しています。

留学生支援

国際交流事業の実施、留学生への生活支援、地域貢献活動への参加支援、日本語学習支援、日本での就職を希望する留学生に対する地域企業とのマッチングなどの就職支援や、留学生研修旅行(年2回)など、様々な面での支援を行っています。

国際交流センター(CIER: Center for International Education and Research)

国際交流センターは、本学の国際化の要となることを目指して留学生センターを改編し、学内共同教育研究施設として平成17年に設置されました。主に、留学生への日本語教育と国際教育を行っています。



研究や学習・教育に必要な高度学術情報の拠点

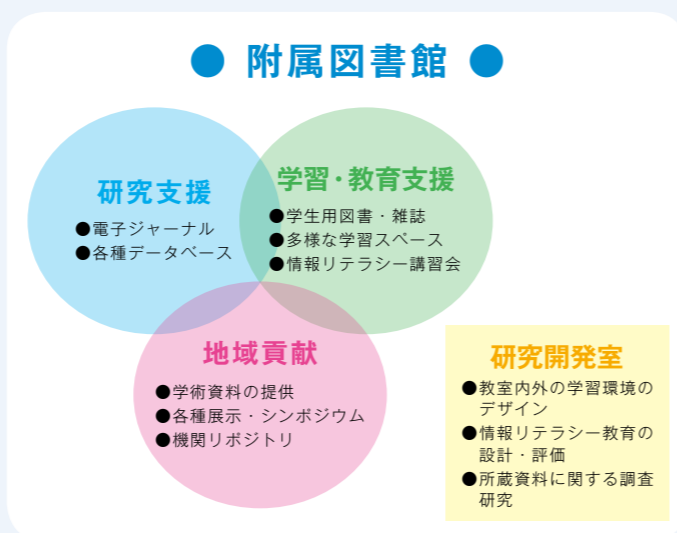
三重大学附属図書館は、平成25年3月にリニューアルされ、「研究支援機能」、「学習・教育支援機能」、「地域貢献機能」の3つの機能をサービスの3本柱に据え、研究や学習・教育に必要な学術情報を広く収集・提供しています。また、附属図書館内に研究開発室を設け、図書館サービスの高度化に取り組んでいます。



附属図書館外観



1階 コモンズエリア



附属図書館

電子ジャーナルやデータベースの充実

研究活動に欠かせない学術雑誌については、ElsevierやSpringerなどの電子ジャーナル1万5千タイトルや電子ブック（Maruzen eBook Library）を導入し、学内LANにつながったパソコンから24時間利用することができます。

同時に、引用文献情報データベースWeb of ScienceやSciFinderScholarなどのデータベースも導入し、研究活動のインフラ整備を進めています。

学習環境の充実と情報リテラシー教育支援

館内にはシラバスに掲載された図書をはじめとする学習に必要な図書や雑誌を揃え、ともに、勉学に集中できる静かな閲覧席やグループ学習もできるラーニングcommons、インターネットに接続したパソコンを（60台）提供するなど、多様な利用目的に対応した学習環境を用意しています。

さらに、授業ともタイアップして、OPAC（蔵書検索データベース）や各種のデータベースの検索方法についての講習会を数多く開催し、学生の情報リテラシーの向上や習得を支援しています。

地域貢献

三重大学が保有する学術資料の公開・展示や、県内の図書館等関連諸団体への学術情報の提供を通じて社会貢献を行っています。また、大学の研究・教育の成果物を電子的に蓄積・保存し、インターネットを通じて発信する学術機関リポジトリを公開しています。

研究開発室

教育の質保証を視野に入れながら、ラーニングcommonsなど教室内外の学習環境をデザインしたり、高い学習成果を得られる情報リテラシー教育を設計・運用したりするために、調査研究を行い、実務者との調整をしています。

環境・情報科学館（Mie Environmental & Informational Platform : MEIPL）

平成24年4月に開館した【環境・情報科学館】

環境・情報科学館は、アカデミックcommons※の一角で、附属図書館と一体化して、学生による新しい知の創出と共有の場となります。

また、「世界に誇れる環境先進大学」を目指し、積極的なリーダーシップを発揮していく社会的な責任を掲げ、低炭素化社会の構築・形成過程を三重から日本、世界へ発信する中心施設となります。

1階は環境教育や研究・地域コミュニティとの交流スペース、2階は全面がラーニングcommons、3階は廊下側の壁がないオープン・スクール形式の教室（PBL演習室）として機能しています。

※アカデミックcommons……ヒトやモノを含むさまざまな情報資源と交流・協働することによって、知を生み出したり、その知を共有したりする場。



【環境・情報科学館】
（愛称：メーブル館）

2階 利用者自身がデザインする学習空間

利用者間の情報共有や新しい発想を促すために、可動式の椅子やテーブル、ホワイトボードを備えており、利用者自身が必要とする学習空間をデザインできます。電子黒板や学習方法に関する基本的な文献も利用できます。PCステーションでは、必要な情報資源にアクセスしたり、入手した情報を分析・整理したりできます。また、よりプライベート感をもって課題探究活動ができるグループ学習室、ゆったりとくつろいだり、談話したり、休憩したりするためのソーシャル・スペースもあります。

さらに平成30年度から、学生の多様な課題解決を大学院生が支援する「MEIPLサポートデスク」が設置されています。ICTサポートデスクでは、PC等に関する相談を受け付けており、ラーニングサポートデスクでは、地域資料の収集・活用方法や、レポートの書き方等に関する質問に応じています。

このように、2階には学生の学びを支える、学習空間と人的支援の体制が整備されています。



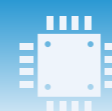
2階 ラーニングcommons

3階 授業やゼミのための新しい教室空間

廊下側の壁がないオープン・スクール形式の教室空間は、それぞれのプライバシーを確保しながら、お互いの気配を感じることによって、刺激しあえる空間となっています。可動式の椅子やテーブルを備えていますので、多様な教育方法に対応できます。四方に壁のある教室空間では、新しいテクノロジーを活用しながら、小規模クラスの課題探究活動を促します。教員の教育活動を支援するティーチングcommonsも備えています。



3階 PBL演習室



情報基盤

Information Infrastructure

学術情報基盤の整備・強化を図る拠点

三重大学は、電子情報受発信の拠点としての役割を担う学術情報基盤の整備と強化に取り組んでいます。

総合情報処理センター

三重大学総合情報処理センターは、ネットワーク基盤研究部門、教育情報システム研究部門、ネットワーク情報サービス部門の3部門からなり、情報システムの日々の管理運用を行いつつ、これからの大学における情報基盤システムの構築ならびに維持発展のための情報基盤の戦略策定を行っています。

総合情報処理センター

- ネットワーク基盤研究部門
- 教育情報システム研究部門
- ネットワーク情報サービス部門

ネットワーク基盤

円滑な教育研究活動・事務業務に不可欠である、高速で堅牢なネットワーク環境を全学に提供しています。また、パソコンを無線接続するためのネットワーク「モバイルLAN」も運用しており、これを利用して個人の持ち込みパソコンを接続することもできます。

情報サービス

教職員・学生のアカウントを「統一アカウント」として一元管理しており、この統一アカウントでメールなど学内の各種システムを利用できます。

また、いくつかの有用なソフトウェアをサイトライセンス契約しており、三重大学構成員であれば誰でもMicrosoft Office Professional Plusを使用することができる他、ウィルス対策ソフトや研究用ソフトの提供も行っていきます。



教育支援

教育端末室（パソコン教室）を学内数か所に開設しており、パソコンを利用する講義や学生の自習に活用できるようになっています。また、情報系資格試験、各種ソフトウェアの使い方、セキュリティ対策などの講習会を行っています。

さらに「モバイル情報案内システム」では、講義に関するお知らせや休講情報などを学内の電子掲示板の他、携帯電話・スマートフォンや自宅のパソコンからも確認できます。

パソコン必携化に合わせて環境・情報科学館ラーニングcommonsにICTサポートデスクを設置し学習・教育での情報基盤活用を支援しています。

情報教育

全学部の新生を対象に、三重大学の情報システムの利用法を学ぶ「情報リテラシー」や、ネットワーク社会におけるルールやマナーを学ぶ「情報倫理」の講義を実施しています。

世界に誇れる環境先進大学を目指して

三重大学は「世界に誇れる環境先進大学」を目指して、「環境教育」・「環境研究」の実施、地域のニーズに対応する地域貢献、業務運営の合理化を図り、CO₂排出削減の低炭素キャンパス、3R活動による循環型キャンパス、産官学民の連携による自然共生キャンパスを構築、運営します。

国際環境教育研究センター (Mie GECER : Global Environment Center for Education & Research)

国際環境教育研究センターは、本学の環境方針に基づき、環境教育・環境研究・地域貢献・業務運営の合理化に積極的に取り組む環境マネジメントシステムを主体として活動しています。

ISO14001 認証取得 (EMS構築・運営)

平成19年11月に、本学は日本の大学初となる全学一括の国際標準規格「ISO14001」認証を取得し、環境マネジメントシステム(EMS)を構築し、現在は2015年度版の規格で運営しています。大学の社会的責任(USR)として、環境人材を育成する一方、環境に及ぼす負荷を最小限に食い止める環境活動を積極的に行っています。

3R活動 (Reduce/Reuse/Recycle) ・ 環境ISO学生委員会が主体となる活動

(1) Reduce (学内店舗のレジ袋ゼロ運動)

平成20年1月より生協でのレジ袋有料化を実施して99%以上の削減に成功し、平成21年10月には全国初のレジ袋ゼロのコンビニエンスストア (MINI STOP) が開店しました。

(2) Reuse (放置自転車・家電製品の再利用)

平成19年からキャンパス内の放置自転車を回収、修理して新入生や留学生に無償譲渡し、平成21年から卒業生の利用しない家電製品を回収、修理して留学生や新入生に無償譲渡しています。

(3) Recycle (古紙再生)

平成19年から古紙を回収し、三重大オリジナルのトイレットペーパーにリサイクルし、本学で使用するトイレットペーパーの約20~30%を賄っています。

産官学民の連携による町屋海岸清掃・生物多様性保全活動

本学の近隣する町屋海岸で、環境ISO学生委員会・教職員、地域住民 (町屋百人衆)、地元企業、行政及び地元の小中学校との連携により、年5回海岸清掃活動及び三重県の準絶滅危惧種に指定されているハマニガナなどの海浜植物の観察会を実施し、環境教育・生物多様性保全活動を行っています。

また、平成26年度から松名瀬干潟においても三重県及び松阪市との協働により同様の活動を実施しています。



町屋海岸 (清掃活動) 松名瀬干潟 (生物観察会)

MIEUポイント

本学における環境活動を評価する取り組みとして、学生・教職員が行った省エネ活動や清掃活動などの個人における環境活動の見える化やインセンティブ制度である、MIEUポイントを導入しています。

省エネ等の環境活動をスマートフォンなどの携帯端末を用いて登録することで、ポイントを付与し、獲得ポイントに応じて、学生生活に必要な品物と交換することができます。

このMIEUポイントにより、自発的な行動を促すとともに、持続的な環境活動を促進します。



スマートキャンパス事業

三重大学は、創エネ (つくる)・蓄エネ (ためる)、省エネ (せつやく) によるスマートキャンパスを構築、運営しています。

(1) キャンパスエネルギーマネジメント

スマートキャンパスの設備をエネルギーマネジメントシステムで最適に運用することにより、大幅にCO₂の排出を削減しています。

(2) 防災拠点としての機能

災害時においてエネルギーインフラ (電気・ガス) が停止した場合にも、再生可能エネルギーを活用することにより事前に選定した重要なエリアに安定電源を供給します。

(3) 実証結果の有効活用

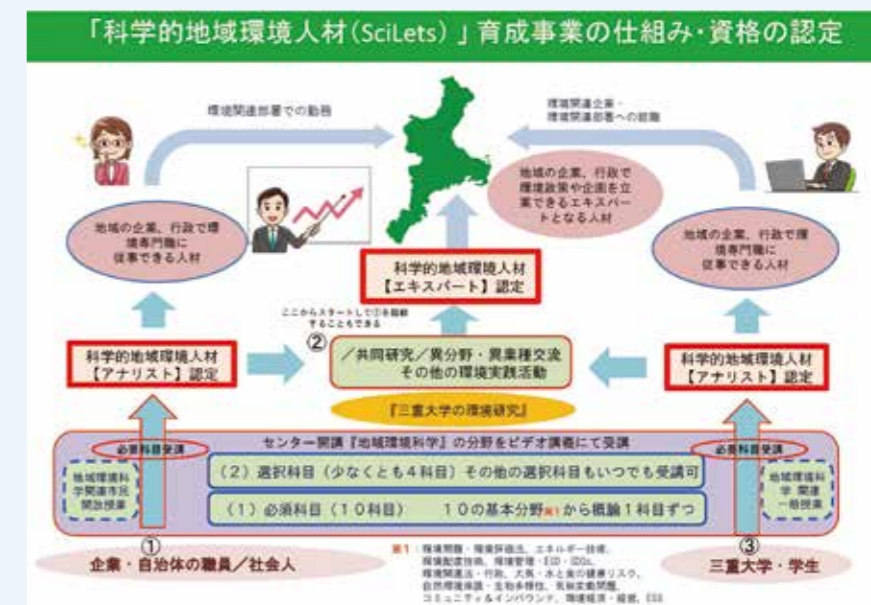
得られた成果から国内の大学や業務系施設に適用できるモデルを構築します。

科学的地域環境人材 (SciLets) 育成事業

科学的地域環境人材育成事業は、環境を網羅的にカバーする講義群「地域環境科学」の基本10分野と選択科目の資格要件を満たした者に、「科学的地域環境人材【アナリスト】」の称号を付与するものです。忙しい社会人の便宜を図るため、大学に通学しなくても遠隔地で受講できる、e-Learning (おもにビデオ講義や情報通信技術を用いた学習形態) の仕組みを導入しています。

さらに、高度な「科学的地域環境人材【エキスパート】」の育成は、On the Job Training (業務を遂行させる中で体系的に実施する教育) による環境実践の仕組みを利用して行うため、本事業の中に環境 (技術) に関する「共同研究」や、「異業種・異分野交流」のハブ機能が組み込まれています。

なお、このような学習・教育システムは三重大学独自のソーシャルネットワーク (本事業においてはSciLets (呼称: サイレッツ) と表します。) により運営され、この仕組みにより各人材は各資格取得後も横につながり、新たな知識の学習や活動を継続していくことができます。



環境関連受賞

本学では、1年間の環境に配慮した事業活動をまとめて、環境報告書として公表しており、この報告書について環境コミュニケーション大賞 (環境省、地球・人間環境フォーラム) を、平成18年度 (第10回) より平成29年度 (第21回) までに9回受賞しています。その内、平成25年度から平成29年度は5回連続で受賞しています。また他に大臣からの賞として、平成21年に「平成20年度容器包装3R促進環境大臣賞」 (環境省)、平成25年に「第22回地球環境大賞文部科学大臣賞」 (フジサンケイグループ)、平成26年に「省エネ大賞 (省エネ事例部門) 経済産業大臣賞」 (省エネルギーセンター)、平成27年に「第17回グリーン購入大賞環境大臣賞」 (グリーン購入ネットワーク)、平成28年に「平成28年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」 (環境省)、平成29年に「平成29年度地域環境保全功労者表彰環境大臣賞」 (環境省) を受け、これまでに5年連続6回の受賞を受けています。



「第21回環境コミュニケーション大賞」表彰式



賞状



環境報告書2017



高度な医療提供と人材育成

三重大学医学部附属病院の理念

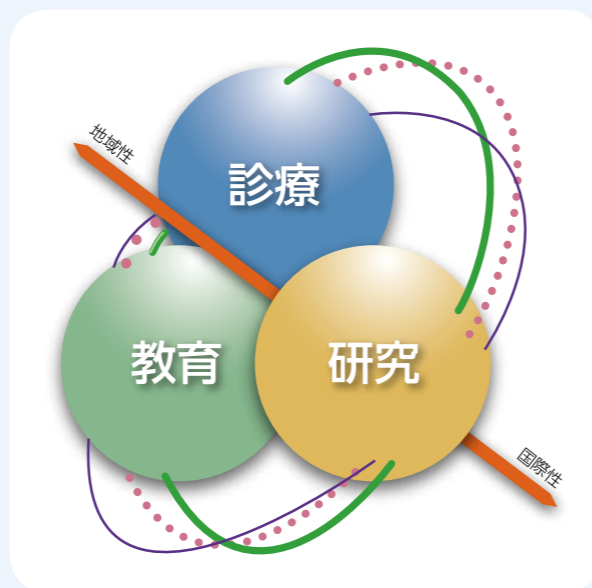
本院は、信頼と安心が得られる地域医療の拠点として、未来を拓く診療・研究を推進し、人間性豊かな優れた医療人を育成する。

《基本方針》

- 心の安らぎと癒しを提供できる病院環境を構築する。
- 疾病を予防し、高度で先進的な医療が安全に受けられる地域の拠点病院として機能する。
- 最先端の臨床研究を推進し、医学・医療を通じて国際社会に貢献する。
- 地域の医療・教育機関、行政との密接な連携の下、次代を担う医療人を育成する。

この基本方針に沿って

「優秀な人材が多く集まり、やりがいのある病院」を目指しています。



質の高い医療を提供できる病院であること

質の高い医療とはまず標準的な診断や治療を安全確実に行うことです。そのために総括的な医療安全管理部、感染制御部による医療のチェック体制を確立します。その基盤にたつて高度医療を推進します。外部の委員を加えた医療の質・倫理検討委員会において治療の妥当性を評価します。

優れた専門医を養成できる病院であること

臓器別専門診療体制を充実し高度先進医療を推進します。これを基盤とする専門医のための教育カリキュラムを確立し、優れた専門医を養成します。

臨床研究環境の整備と研究者の研究倫理研修を推進し、最先端の臨床研究を実施できる病院であること

質の高い臨床研究を推進するため臨床研究開発センターを中心とする臨床研究支援体制を充実させます。

地域医療へ貢献できる病院であること

三重県内の関連病院との連携で中心的役割を果たします。特に遠隔地病院との連携において、教育スタッフを派遣し医療レベルの確保に積極的に協力します。

病院再開発事業が完了しました。

三重大学医学部附属病院は、新病棟が2012年、新外来棟が2015年に稼働し、2018年春には駐車場・外観工事も終了して、新しい三重大学医学部附属病院が完成しました。

新外来・診療棟▶



病棟・診療棟

12F	●展望レストラン四鬮折々 ●三医会ホール	
11F	●血液内科 ●腫瘍内科 ●眼科 ●皮膚科	
10F	●循環器内科 ●心臓血管外科 ●総合内科 ●放射線診療科 ●リウマチ・膠原病内科 ●糖尿病・内分泌内科 ●腎臓内科 ●呼吸器内科 ●呼吸器外科	
9F	●消化器・肝臓内科 ●消化管外科 ●肝胆膵外科	
8F	●整形外科 ●脳神経外科 ●脳神経内科 ●形成外科 ●放射線治療科 ●IVR科	
7F	●婦人科 ●小児科 ●小児外科 ●乳腺外科 ●小児心臓外科 ●細胞移植療法部	●南病棟 ●周産母子センター
6F	●泌尿器外科 ●歯科口腔外科	●北病棟 ●小児科 ●小児外科 ●小児心臓外科 ●細胞移植療法部
5F	●耳鼻咽喉・頭頸部外科 ●消化管外科 ●肝胆膵外科 ●消化管外科 ●肝胆膵外科	●南病棟 ●精神科神経科 ●R1病棟・密封小線源治療
3F	●中央検査部(緊急検査室) ●輸血部 ●病理部 ●中央材料部 ●臨床麻酔部 ●中央手術部(手術室) ●臨床工学部	
2F	●血液浄化療法部(透析センター) ●光学医療診療部(内視鏡室) ●中央放射線部(CT・MRI・アンギオ) ●総合集中治療センター	
1F	●中央放射線部(RI検査室) ●救命救急センター(救急外来) ●時間外受付・防災センター ●栄養診療部(厨房) ●薬剤部 ●医療品売店 ●医療材料渡し窓口 ●理容・美容 ●くつろぎ・憩いのコーナー	

5F	●臨床研修・キャリア支援部 ●大ホール ●がんセンター ●院内学級 ●患者図書館(患者図書館へは、病棟・診療棟6階エレベーターから入館できます)
4F	●精神科神経科 ●皮膚科 ●歯科口腔外科 ●肝炎相談支援センター ●口腔ケアセンター ●脳波検査室 ●栄養指導管理室 ●フロア窓口
3F	●総合診療科 ●総合内科 ●循環器内科 ●血液内科 ●消化器・肝臓内科 ●呼吸器内科 ●腫瘍内科 ●腎臓内科 ●糖尿病・内分泌内科 ●腎泌尿器外科 ●緩和ケア科 ●感染症内科 ●外来化学療法部 ●血管ハートセンター ●中央採血室 ●生理機能検査室 ●遺伝カウンセリング室 ●受付・計算窓口 ●リウマチ・膠原病センター
2F	●脳神経内科 ●一般外科 ●消化管外科 ●肝胆膵・移植外科 ●心臓血管外科 ●呼吸器外科 ●小児外科 ●整形外科 ●産科婦人科 ●小児科 ●眼科 ●耳鼻咽喉・頭頸部外科 ●脳神経外科 ●形成外科 ●放射線診療科 ●IVR科 ●麻酔科(ペインクリニック・統合医療・鍼灸・漢方) ●乳腺センター ●高度生殖医療センター ●中央放射線部(X線撮影・透視・CT・MRI) ●受付・計算窓口
1F	●放射線治療科(放射線治療) ●リハビリテーション部 ●総合受付 ●受付・会計窓口 ●支払窓口・診療費自動支払機 ●医療福祉支援センター(患者相談窓口) ●臨床研究開発センター ●入退院サポートセンター ●臓器移植センター ●小児トータルケアセンター ●栄養診療部 ●がん相談支援センター ●栄養指導室 ●感染診察室 ●授乳室 ●院外処方箋案内 ●リボンスハウス ●コンビニエンスストア ●コーヒーストック ●ATMコーナー



職員数

平成30年5月1日現在

区分 部局等	学長	理事	監事	大学教員				小計	附属学校 教員	その他 職員	小計	合計
				教授	准教授	講師	助教					
学長・理事・監事	1(0)	5(0)	2(0)							8(0)	8(0)	
事務局等				1(1)					182(62)	182(62)	183(63)	
教養教育院				11(1)	3(2)	2(0)	1(1)		8(4)	8(4)	25(8)	
地域人材教育開発機構				1(1)	4(3)	2(0)	2(1)			0(0)	9(5)	
地域イノベーション推進機構				2(0)	5(0)		11(3)		5(2)	5(2)	23(5)	
地域拠点サテライト					1(0)					0(0)	1(0)	
地域創生戦略企画室							1(0)			0(0)	1(0)	
国際交流センター					1(1)					0(0)	1(1)	
総合情報処理センター					1(0)		3(0)		2(0)	2(0)	6(0)	
学生総合支援センター							2(0)			0(0)	2(0)	
国際環境教育研究センター							1(0)			0(0)	1(0)	
アドミッションセンター					1(0)					0(0)	1(0)	
保健管理センター				2(0)	1(0)				2(2)	2(2)	5(2)	
人文学部				32(11)	27(7)	3(1)	3(3)		9(4)	9(4)	74(26)	
大学院教育学研究科				3(0)	3(1)					0(0)	6(1)	
教育学部				49(9)	23(7)	4(1)			8(5)	8(5)	84(22)	
附属幼稚園								7(6)		7(6)	7(6)	
附属小学校								26(9)	6(4)	32(13)	32(13)	
附属中学校								27(9)		27(9)	27(9)	
附属特別支援学校								29(16)		29(16)	29(16)	
大学院医学系研究科				47(9)	31(12)	15(0)	50(18)		8(4)	8(4)	151(43)	
医学部				1(1)		1(1)	11(3)			0(0)	13(5)	
附属病院				7(2)	15(0)	50(2)	125(25)		776(609)	776(609)	973(638)	
大学院工学研究科				40(0)	41(0)	2(0)	19(2)		30(9)	30(9)	132(11)	
大学院生物資源学研究科				46(2)	37(4)	2(1)	13(2)		11(5)	11(5)	109(14)	
附属紀伊・黒潮生命地域 フィールドサイエンスセンター									21(4)	21(4)	21(4)	
附帯施設農場				1(0)	2(0)					0(0)	3(0)	
附帯施設演習林					1(0)		1(0)			0(0)	2(0)	
附帯施設水産実験所				1(0)						0(0)	1(0)	
附属練習船勢水丸					1(0)		1(0)		14(2)	14(2)	16(2)	
附属鯨類研究センター				4(0)	2(0)		1(1)			0(0)	7(1)	
大学院地域イノベーション学研究科				7(0)			3(2)			0(0)	10(2)	
総計	1(0)	5(0)	2(0)	255(37)	200(37)	83(6)	246(61)	792(141)	89(40)	1,082(716)	1,171(756)	

* 監事のうち1名は非常勤職員。 * 職員数には、休職者及び育児休業者を含まず、任期付職員（代替職員）を含む。 * () 内は女性数を内数で示す。 * 附属学校教員には特別教員を含む。

寄附講座・産学官連携講座（医学系研究科・医学部）

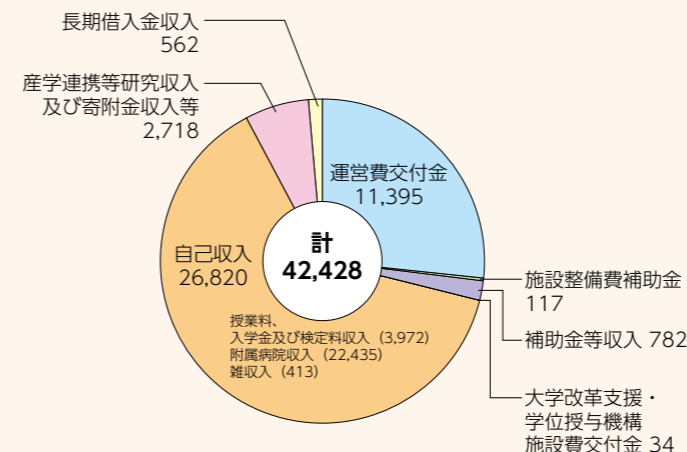
平成30年5月1日現在

講座	区分	大学教員				小計	非常勤 教員	合計
		教授	准教授	講師	助教			
認知症医療学講座	寄附講座				1(0)		1(0)	
先進医療外科学講座	寄附講座				1(0)		1(0)	
スポーツ整形外科学講座	寄附講座			1(0)			1(0)	
亀山地域医療学講座	寄附講座			1(0)	2(0)		3(0)	
名張地域医療学講座	寄附講座			1(0)	1(0)		2(0)	
三重県総合診療地域医療学講座	寄附講座				3(1)		3(1)	
神経・筋病態学講座	寄附講座	1(0)					1(0)	
先進画像診断学講座	寄附講座	1(0)					1(0)	
周産期新生児発達医学講座	寄附講座	1(1)					1(1)	
腹部救急地域連携学講座	寄附講座				1(0)		1(0)	
先進がん治療学講座	寄附講座				1(1)		1(1)	
脊髄末梢神経低侵襲外科学講座	寄附講座	1(0)					1(0)	
遺伝子・免疫細胞治療学講座	産学官連携講座	2(0)				1(0)	3(0)	
個別化がん免疫治療学講座	産学官連携講座		1(0)	1(0)			2(0)	
臨床創薬研究学講座	産学官連携講座				1(0)		1(0)	
システム薬理学講座	産学官連携講座	1(0)					1(0)	
合計		7(1)	1(0)	4(0)	11(2)	1(0)	24(3)	

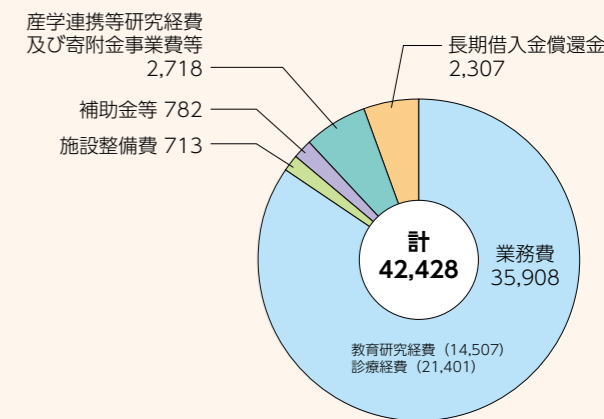
* () 内は女性数を内数で示す。

平成30年度予算

収入（単位：百万円）



支出（単位：百万円）



平成29年度科学研究費助成事業及び民間等との共同研究等受入れ状況

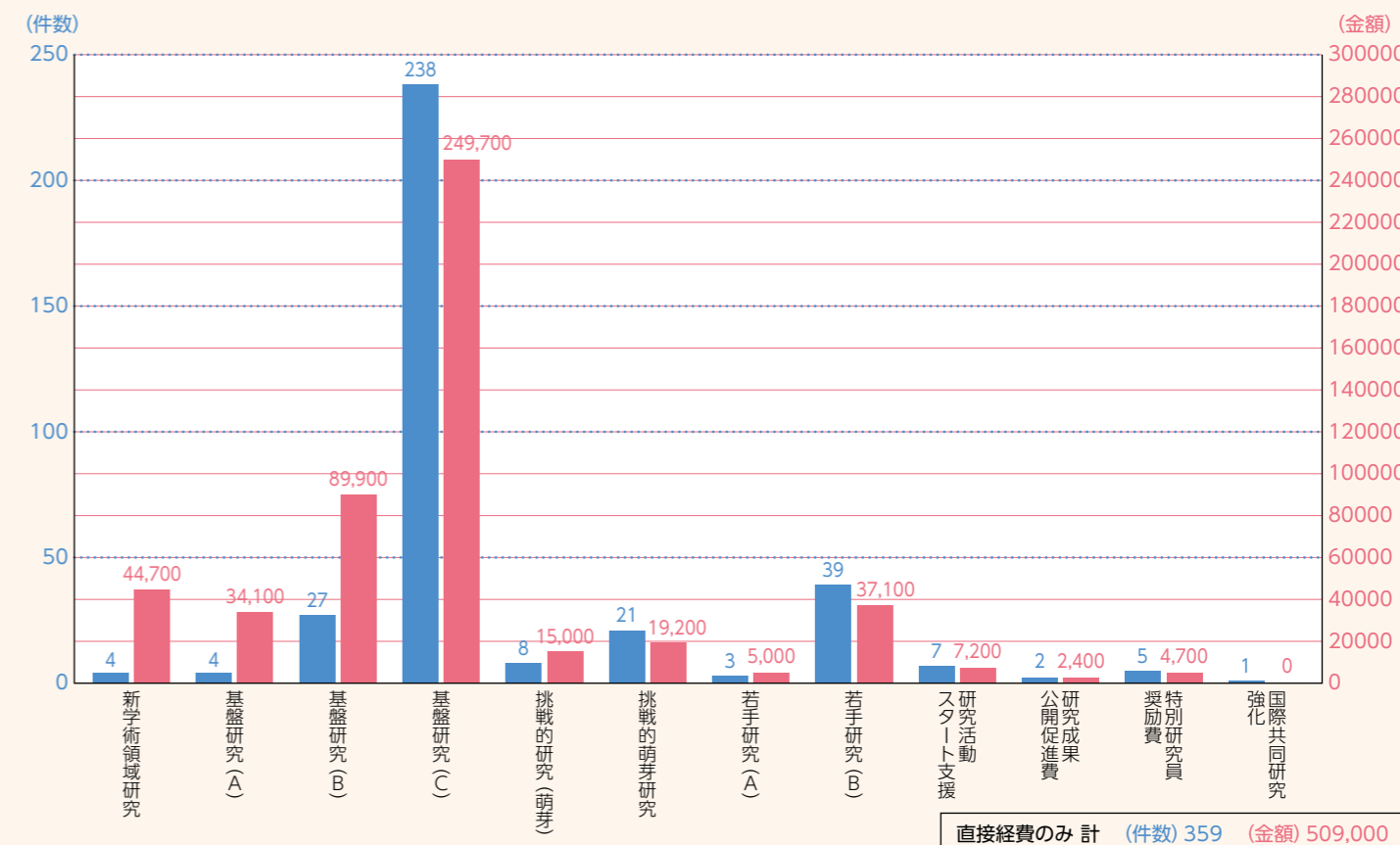
民間企業等との共同研究

（単位：千円）（千円未満切り捨て）

区分	件数	金額
民間等との共同研究	282	383,010
受託研究	212	851,960
奨学寄附金	1,224	821,716
合計	1,718	2,056,686

科学研究費助成事業

（単位：千円）



平成30年度入学志願者数及び入学者数

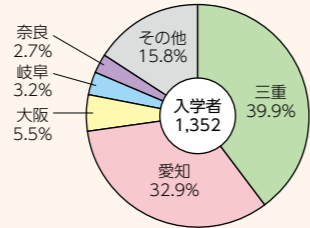
平成30年4月1日現在

区分	定員	志願者数			受験者数			入学者数		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
学部		(20)	(12)	(32)	(19)	(12)	(31)	(4(*1))	(2)	(6(*1))
人文学部	245	505	560	1,065	392	397	789	114	153	267
教育学部	200	(2)	(0)	(2)	(2)	(0)	(2)	(0)	(0)	(0)
医学部	205	483	566	1,049	316	302	618	92	113	205
工学部	400	(20)	(6)	(26)	(20)	(6)	(26)	(5)	(1)	(6)
生物資源学部	260	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
合計	1,310	(42)	(18)	(60)	(41)	(18)	(59)	(9(*1))	(3)	(12(*1))
大学院		3,543	2,437	5,980	2,514	1,661	4,175	817	547	1,364
人文社会科学研究所	15	(3)	(9)	(12)	(3)	(9)	(12)	(2)	(6)	(8)
教育学研究所	27	(4)	(4)	(8)	(4)	(4)	(8)	(4)	(3)	(7)
医学系研究所	12	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
工学研究所	216	(6)	(2)	(8)	(6)	(2)	(8)	(3)	(2)	(5)
生物資源学研究所	88	(6)	(3)	(9)	(6)	(3)	(9)	(6)	(3)	(9)
地域イノベーション学研究所	15	(1)	(0)	(1)	(1)	(0)	(1)	(1)	(0)	(1)
合計	479	(23)	(22)	(45)	(23)	(22)	(45)	(18)	(18)	(36)

() 内は、外国人留学生を内数で示す。
*は、マレーシア政府派遣による入学者(学部学生)を含む。

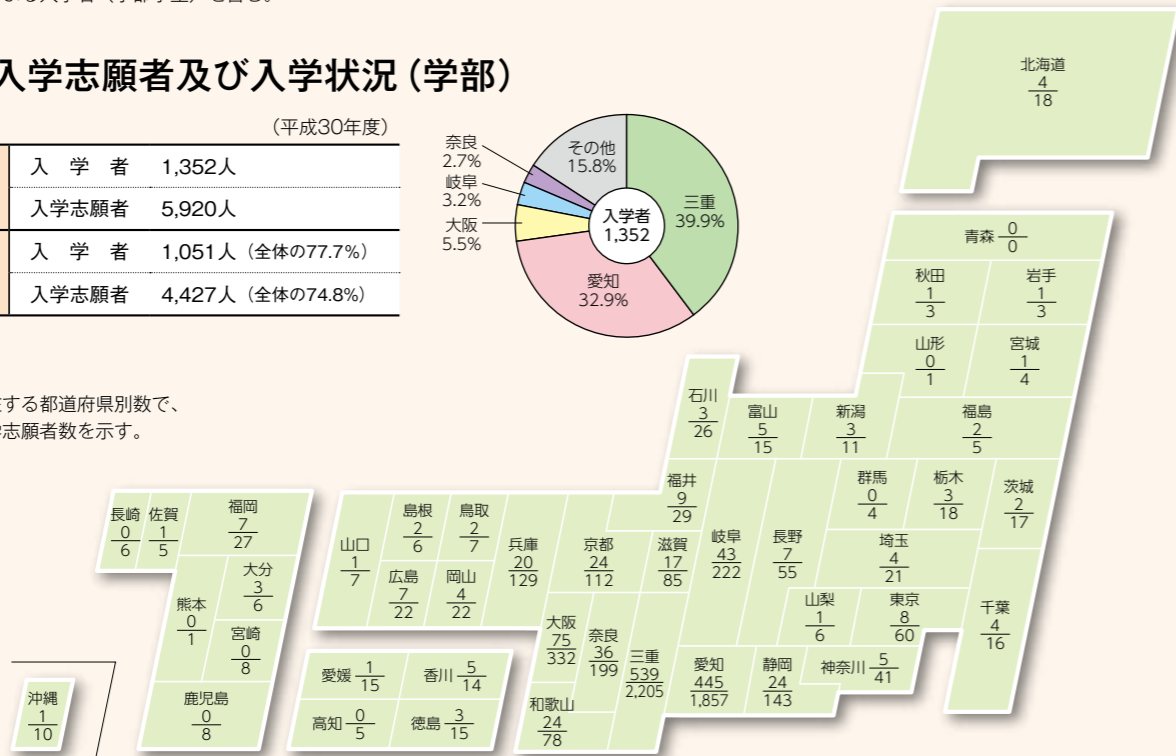
都道府県別入学志願者及び入学状況(学部)

全体		入学者	入学志願者
		1,352人	5,920人
東海4県の計 (三重、愛知、岐阜、静岡)		1,051人 (全体の77.7%)	4,427人 (全体の74.8%)



※外国人留学生を除く。

図は、出身高等学校等が所在する都道府県別数で、
上段は入学者数、下段は入学志願者数を示す。



上記のほか= 高等学校卒業程度認定試験合格者 3/17、帰国生徒 1/2、在外認定 0/0、外国の諸学校 2/4

平成29年度卒業生数・修了者数・学位授与数

学部

() 内は、女子数を内数で示す。

学部名	学科名	卒業生数		
		平成29年度	累計	
人文学部	文化学科	(77)	114	
	法律経済学科	(75)	181	
	社会科学科	(0)	0	
	小計	(152)	295	
教育学部	学校教育教員養成課程	(97)	186	
	情報教育課程	(0)	1	
	生涯教育課程	(0)	0	
	人間発達科学課程	(18)	23	
小計	(115)	210		
医学部	医学科	(43)	127	
	看護学科	(73)	80	
	小計	(116)	207	
工学部	機械工学科	(3)	96	
	電気電子工学科	(4)	94	
	分子素材工学科	(22)	98	
	建築学科	(18)	54	
	情報工学科	(6)	56	
	物理工学科	(4)	33	
	小計	(57)	431	
生物資源学部	資源循環学科	(37)	64	
	共生環境学科	(29)	85	
	生物圏生命科学科	(40)	94	
	小計	(106)	243	
(旧農学部)	—	(222)	6,978	
(旧水産学部)	—	(56)	944	
①合計	(546)	(22,012)	1,386	64,297

専攻科・別科

() 内は、女子数を内数で示す。

区分	修了者数		
	平成29年度	累計	
専攻科	特別支援教育特別専攻科	(53)	74
	(旧)特殊教育特別専攻科	(197)	352
	(旧)教育専攻科	(19)	78
別科	農業別科	(18)	609
③合計	(287)	1,113	
総計①+②+③	(24,704)	77,909	

医療技術短期大学部

() 内は、女子数を内数で示す。

学科	卒業生数	
	平成29年度	累計
看護学科	(704)	715

大学院

() 内は、女子数を内数で示す。

研究科	課程	修了者数	
		平成29年度	累計
人文社会科学研究所	修士	(10)	(213)
	博士	16	412
教育学研究所	修士	(8)	(485)
	博士	30	1,035
医学系研究所	修士	(2)	(250)
	博士	12	390
工学研究所	博士前期	(7)	(7)
	博士	8	8
工学研究所	博士前期	(7)	(192)
	博士	33	1,267
工学研究所	博士前期	(21)	(394)
	博士	224	4,451
生物資源学研究所	博士前期	(2)	(30)
	博士	12	321
生物資源学研究所	博士前期	(36)	(680)
	博士	93	2,408
地域イノベーション学研究所	博士前期	(2)	(77)
	博士	10	300
工学研究所	博士前期	(3)	(24)
	博士	13	85
工学研究所	博士前期	(0)	(3)
	博士	2	21
工学研究所	修士	—	(31)
生物資源学研究所	修士	—	(6)
(旧)農学研究科	修士	—	(12)
(旧)水産学研究所	修士	—	(1)
②合計		(98)	(2,405)
		453	12,499

学位授与数

() 内は、女子数を内数で示す。

専攻分野	修士		博士	
	平成29年度	累計	平成29年度	累計
人文科学	(5)	(127)	(7)	(192)
	6	213	33	1,267
社会科学	(5)	(86)	(0)	(104)
	10	199	6	886
教育学	(8)	(485)	(2)	(30)
	30	1,035	12	321
医科学	(0)	(101)	(0)	(1)
	8	232	2	34
看護学	(9)	(156)	(2)	(80)
	12	166	12	321
工学	(21)	(425)	(1)	(15)
	224	5,615	2	95
生物資源学	(36)	(686)	(12)	(422)
	93	2,560	67	2,924
学術	(3)	(24)	(1)	(15)
	13	85	2	95
(旧)農学	—	(12)	—	(37)
	—	378	—	1,077
(旧)水産学	—	(1)	—	(1)
	—	107	—	107
合計	(87)	(2,103)	(67)	(2,924)
	396	10,590		

※1: 修士(工学)の累計学位授与者数は工学研究所(前期)の修了者数累計と工学研究所(修士)の累計修了者数1,164名(31)を足す。

※2: 修士(生物資源学)の累計学位授与者数は生物資源学研究所(前期)の修了者数累計と生物資源学研究所(修士)の累計修了者数152名(6)を足す。

平成29年度就職状況

() 内は、女子学生数を内数で示す。 (注) 博士課程、博士後期課程の修了者については、単位取得満期退学者を含む。

平成30年5月1日現在

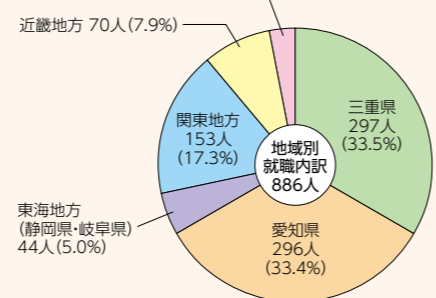
Table with columns for Division (区), Faculty (学), Department (部), and Course (院). It lists various departments like Humanities, Education, Medicine, Engineering, and Biological Resources, along with their enrollment, graduates, and employment status across different industries.

Table showing the distribution of graduates across prefectures (就職先地域). The columns represent prefectures like Ise, Aichi, Tokai, Tohoku, and others, with rows corresponding to different faculties and departments.

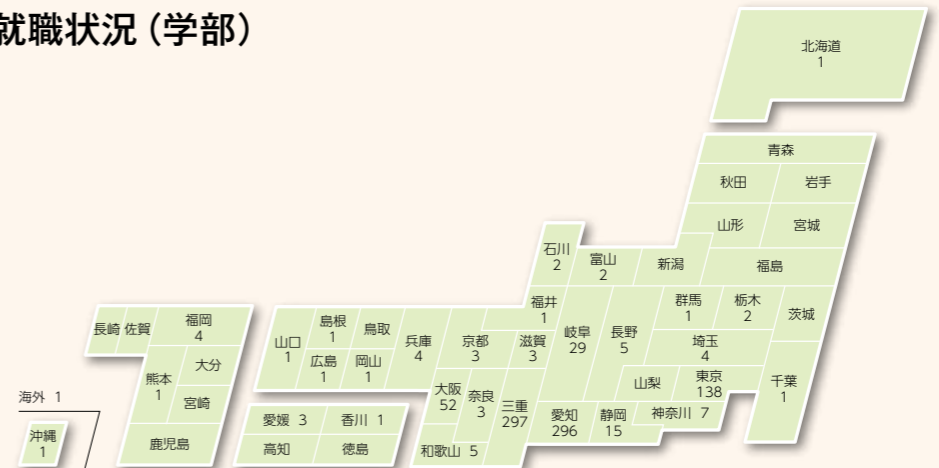
産業別就職状況(学部)

*就職率とは、就職希望者に占める就職者の割合です。

地域別就職状況(学部)



都道府県別就職状況(学部)



外国人留学生数

学部別内訳 ()内は、女子数を内数で示す。

平成30年5月1日現在

Table with columns: 区分, 学部, 修士, 博士, 計. Rows include 人文学部, 教育学部, 医学部, etc.

国別内訳 ()内は、女子数を内数で示す。

平成30年5月1日現在

Table with columns: 地域・国名, 学部, 大学院, 国際交流センター, 計. Rows include 中国, インドネシア, 韓国, etc.

平成29年度国際交流事業一覧(経費助成対象)

Table with columns: 部局名, 事業名(申請時の名称), 対象国, 申請代表者. Rows include 教養教育機構, 人文学部, 教育学部, etc.

※教養教育機構は平成30年4月1日より教養教育院へ名称変更

国際交流

平成29年度外国人研究者受入れ数

Table with columns: 外国人研究者, 23名

大学間協定(26カ国・地域, 66大学・機関)

※()内は、学部間協定の締結日を示す。

Table with columns: 大学名, 国名, 協定締結日. Rows include 江蘇大学, チェンマイ大学, タスマニア大学, etc.

学部間協定(26カ国, 53大学・機関)

Table with columns: 学部, 大学名, 国名, 協定締結日. Rows include 教養教育院, 人文学部, 教育学部, etc.

平成29年度日本人海外留学者数(協定校)

Table with columns: 日本人留学生, 23名

平成30年4月1日現在

Table with columns: 大学名, 国名, 協定締結日. Rows include ハルオレオ大学, ハワイバシフィック大学, シャルジャ大学, etc.

平成30年4月1日現在

Table with columns: 学部, 大学名, 国名, 協定締結日. Rows include 大学院医学系研究科・医学部, 大学院工学研究科・工学部, etc.

附属図書館

利用統計 (平成29年度)

Table with columns: 入館者総数, 貸出者数, 貸出冊数, 文献複写, 図書館間相互貸借

蔵書数

平成30年3月31日現在

Table with columns: 区分, 和書(冊), 洋書(冊), 計(冊)

附属病院

診療科等

Table with columns: 診療科, 病床数, 診察状況 (入院, 外来)

診療施設等

- 薬剤部, 中央検査部, 中央手術部, 臨床麻酔部, 中央放射線部, 中央放射線部, 中央材料部, 救命救急・総合集中治療センター, 輸血・細胞治療部, 周産母子センター, 集中治療部, 医療情報管理部, 病理部, 光学医療診療部, 血液浄化療法部, 医療福祉支援センター, リハビリテーション部, 栄養診療部, 臨床研修・キャリア支援部, オーダーメイド医療部, 臨床研究開発センター, 医療安全管理部, 感染制御部, 臨床工学部, がんセンター, 乳腺センター, リハビリテーション部, 肝炎相談支援センター, 外来化学療法部, Aiセンター, IT広報センター, 臓器移植センター, 血管ハートセンター, CCUネットワーク支援センター, 疫学センター, 口腔ケアセンター, 災害医療センター, 小児トータルケアセンター, 認知症センター, 国際医療支援センター, 緩和ケアセンター, 高度生殖医療センター, 入院退院サポートセンター, チーム医療推進センター, リウマチ・膠原病センター

学外者利用統計 (平成29年度)

《学外者利用統計》

Table with columns: 登録者数, 貸出冊数, 入館者数

《登録者内訳》

Table with columns: 登録者数(人)

学術刊行物 (平成29年度)

Table with columns: 学部名, 刊行物名, 発行部数(部), 発行回数(回)

平成29年度患者数調

Table with columns: 診療科, 病床数, 診察状況 (入院, 外来)

※総合集中治療センター(救急科) 患者延数は救急科患者数のみを計上
※外来の患者延数および1日平均患者数は、外来日数244日で計上
※肝胆膵・移植外科に一般外科患者数を含む
※リウマチ膠原病センターの外来は平成29年10月1日から稼働
※リウマチ膠原病センターの入院病床は平成30年1月1日より稼働
※病床数は平成30年3月31日現在

平成30年4月1日現在

厚生保健施設等

厚生保健施設

平成30年5月1日現在

Table with columns: 名称, 建物延面積(㎡), 備考

体育施設及び課外活動施設

平成30年5月1日現在

Table with columns: 名称, 面積等(㎡), 名称, 面積等(㎡)

土地・建物

Table with columns: 地区, 部局等, 土地(㎡), 建物(㎡)

練習船「勢水丸」

平成30年5月1日現在

Table with columns: 全長, 幅, 深さ, 総トン数, 主機関, 航海速力, 定員, 竣工

寄宿舍

平成30年5月1日現在

Table with columns: 名称, 建物延面積(㎡), 備考

平成30年5月1日現在

Table with columns: 地区, 部局等, 土地(㎡), 建物(㎡)

建物(㎡)はのべ床面積を示す。*借受地を示す。

地域との相互友好協力に関する協定等

平成30年4月1日現在

締結先等	締結日
◆国の機関	
国土交通省中部地方整備局	H23.12.19
◆三重県	
三重県との災害対策相互協力協定	H17.12.21
三重県との災害対策相互協力細目協定	H19.03.20
三重県科学技術振興センター	H19.03.23
三重県との「医療」分野における連携に関する協定	H22.01.29
三重県（防災危機管理部）	H22.05.26
三重県との実演芸術の振興等にかかる連携に関する協定	H25.09.12
三重県総合博物館との相互協力協定	H26.02.26
三重県とのみえ防災・減災センター設置に関する協定	H26.04.01
三重県との国際会議の誘致に関する協定	H28.11.22
◆市町との相互友好協力等に関する協定	
尾鷲市	H14.12.02
四日市市	H15.10.07
亀山市	H16.01.27
鳥羽市	H16.03.22
朝日町	H16.06.09
志摩市	H17.06.21
伊賀市	H18.01.23
津市	H21.02.20
鈴鹿市	H22.06.30
伊勢市	H23.01.27

締結先等	締結日
桑名市	H25.07.01
松阪市	H25.08.29
南伊勢町	H27.06.02
玉城町	H28.10.05
木曽岬町	H29.01.16
明和町	H29.01.19
東員町	H29.01.23
大台町	H29.02.14
紀北町	H29.02.14
名張市	H29.02.20
熊野市	H29.02.21
御浜町	H29.02.21
紀宝町	H29.02.21
多気町	H29.02.24
度会町	H29.03.27
菟野町	H29.03.28
いなべ市	H29.03.30
川越町	H29.03.30
大紀町	H29.03.31
◆教育・研究機関等	
財団法人東海水産科学協会（海の博物館）	H16.03.18
和歌山大学	H16.11.30
鈴鹿医療科学大学	H19.06.22
三重県教育委員会	H19.11.30
戦略的連携支援事業	H20.09.26
朝日大学	H22.02.03
名古屋大学・愛知教育大学	H24.04.24

締結先等	締結日
立命館大学	H25.08.28
藤田保健衛生大学	H26.12.03
三重県獣医師会	H27.03.27
紀伊山系における大規模土砂災害に係る技術、研究開発及び教育の発展を目的とした連携・協力協定	H27.03.27
三重県内の高等教育機関と三重県との「高等教育コンソーシアムみえ」に関する協定	H28.03.29
東海地区国立大学法人の大規模災害対応に関する協定	H29.06.14
◆企業	
(株) オートネットワーク技術研究所	H17.05.25
中部電力株式会社	H17.09.14
富士電機(株)	H18.02.22
(株) 百五経済研究所、(株) 百五銀行	H18.03.10
日本政策投資銀行	H18.03.10
(株) 岡三ホールディングス	H18.06.05
(株) 三重銀行、(株) 三重銀総研	H19.05.28
三井住友信託銀行(株)	H19.11.01
(株) 第三銀行	H21.04.20
三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)	H21.07.09
JAグループ三重	H21.11.12
(株) シーエナジー	H23.12.22
日本メナード化粧品(株)	H27.03.09
(株) 日本政策金融公庫 津支店	H28.03.31
(株) モビリティランド	H28.11.18

三重大学地域貢献活動支援

(平成29年度)

活動代表者			活動テーマ
番号	所属	氏名	
1	人文学部	田中 綾乃	三重県におけるアートマネジメント養成プログラムの開発
2	教育学部	林 朝子	外国人児童生徒の学びの継続を目指す支援活動ーキャリア形成につながる大学見学ツアーの実施ー
3	教育学部	市川 俊輔	ヒノキ等森林資源からのアロマオイル抽出とその製品化
4	医学系研究科	竹村 洋典	「地域でのアクションリサーチで、健康増進を改善する」
5	医学系研究科	坂口 美和	人生経験のもつ強みを「聞き書き」を通して発見しよう
6	工学研究科	元垣内敦司	光技術による産学官の連携と地域産業の振興
7	生物資源学研究科	亀岡 孝治	東紀州におけるICTを援用した科学的柑橘栽培支援
8	生物資源学研究科	神原 淳	尾鷲天満荘（東紀州産業振興学舎）を利用した地域食文化実習
9	生物資源学研究科	吉松 隆夫	志摩の里海と海女文化を支える磯根資源の増殖のための取り組み
10	生物資源学研究科	伊藤 良栄	地域の農業水利施設管理の高度化と標準化言語を利用した汎用化
11	生物資源学研究科	飯島 慈裕	津のお米の味と品質を裏付けする生育診断・環境評価手法の開発と実践
12	生物資源学研究科	関谷 信人	三重大学オリジナル酒米品種「弓形穂」を活用した多気町地酒ブランド作りへの貢献
13	生物資源学研究科	金岩 稔	大内山川に生息する放流アユ比率の季節変動
14	生物資源学研究科	松井 隆宏	東紀州サテライトを拠点とした地域プロジェクト型インターンシッププログラムの開発
15	生物資源学研究科	岡島 賢治	宮川用水のパイプライン内のタイワンシジミ詰まり問題解決に向けて
16	生物資源学研究科	倉島 彰	ウニ除去を通じた三重県南部の藻場再生活動の推進
17	生物資源学研究科	村上 克介	LED利用型植物工場における光環境特性の構築および商用普及
18	地域人材教育開発機構	佐藤 彩子	三重県の餅文化を活かした地域活性化～三重創生ファンタジスタクラブ「三重餅プロジェクト」～
19	地域拠点サテライト	山本 康介	東紀州サテライトを拠点とした熊野地域の小中高の児童・生徒に対する「木育」プログラムの開発と実施
20	人文学部	吉丸 雄哉	落語を活かした地域活性化の取り組み
21	教育学部	岡野 昇	津市における「子どもの体力・運動能力向上のための推進活動」と「教員の学びの支援ネットワークの構築」
22	工学研究科	浅野 聡	「伊勢河崎商人館」における展示計画を通じた景観まちづくり活動の推進
23	生物資源学研究科	立花 義裕	地元テレビ局や気象予報士との協働による三重の「気象力」向上プロジェクト
24	生物資源学研究科	野中 寛	三重県のセルロースナノファイバー（CNF）事業の活性化支援
25	教養教育機構	瀬戸美奈子	鈴鹿市における大学・教育委員会・学校が連携した不登校対策の推進
26	教育学部	魚住 明生	三重県において「未来の科学技術イノベーター」を育成する産学官連携プログラムの開発
27	教育学部	大隈 節子	生涯スポーツを基軸にしたスポーツ交流活動

※教養教育機構は平成30年4月1日より教養教育院へ名称変更

公開講座等（平成29年度）

公開講座等

開催部局等	講座名	件数	総参加者数(概算)
人文学部	「国際忍者研究センター」設立記念 講演会「天正伊賀の乱ー伝説の形成ー」他	51	4,041
教育学部	第28回定期観望会 他	18	2,910
医学部・附属病院	認知症のひとの家族支援「えそらカフェ」他	122	8,285
工学部	第9回「夏休みものづくり・体験セミナー」他	18	1,525
生物資源学部	外国人研究者招へい事業特別公開セミナー 他	47	1,318
地域イノベーション学研究科	第9回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ (IWRIS2017)	1	163
教養教育機構	三重大学教養教育シンポジウム2017 他	4	155
その他	みえアカデミックセミナー2017 他	309	35,041
	計	570	53,438

※教養教育機構は平成30年4月1日より教養教育院へ名称変更

教員免許状更新講習

領域名	講習名	件数	総参加者数(概算)
必修領域	教育の最新事情1 他	10	624
選択必修領域	学校における危機管理について 他	24	628
選択領域	中国語会話入門 他	105	1,850
	計	139	3,102

出前授業（高等学校対象）

開催学部	授業名	件数	総参加者数(概算)
人文学部	人はなぜ歌うのかー本居宣長を手懸りにー 他	32	1,407
教育学部	プログラミング教育について 他	5	234
医学部	災害時の受援と支援を考えるワークショップ 他	19	492
工学部	力学でみる人体の機能 他	22	765
生物資源学部	ウナギ丼とマグロの刺身の将来 他	14	850
	計	92	3,748

三重大学リサーチセンター

卓越型リサーチセンター

平成30年4月1日現在

番号	センターの名称	代表者名
1	三重大学次世代型電池開発センター	工学研究科 教授 今西 誠之
2	三重大学人間共生ロボティクス・メカトロニクスリサーチセンター	工学研究科 教授 池浦 良淳
3	三重大学特異構造の結晶科学リサーチセンター	地域イノベーション学研究科 教授 三宅 秀人
4	三重大学次世代型VLPワクチン研究開発センター	医学系研究科 教授 野阪 哲哉
5	三重大学次世代抗がん剤開発・ゼブラフィッシュスクリーニングセンター	医学系研究科 講師 島田 康人
6	三重大学コーディネート育種基盤創生リサーチセンター	生物資源学研究科 准教授 諏訪部圭太

リサーチセンター

平成30年4月1日現在

番号	センターの名称	代表者名
1	三重大学疾患ゲノム研究センター	地域イノベーション推進機構 教授 山田 芳司
2	三重大学環境エネルギー工学研究センター	工学研究科 教授 前田太佳夫
3	三重大学地域ECOシステム研究センター	人文学部 教授 朴 恵淑
4	三重大学メディカルゼブラフィッシュ研究センター	医学系研究科 教授 田中 利男
5	三重大学脳解析センター	医学系研究科 教授 成田 正明
6	三重大学バイオバンク研究センター	医学系研究科 教授 中谷 中
7	三重大学マトリックスバイオロジー研究センター	医学系研究科 准教授 今中 恭子
8	三重大学ソフトマターの化学リサーチセンター	工学研究科 教授 北川 敏一
9	三重大学次世代ICTリサーチセンター	工学研究科 教授 井須 尚紀
10	三重大学バイオエンジニアリング国際教育研究センター	医学系研究科 教授 島岡 要
11	三重大学環境低負荷プロセスリサーチセンター	工学研究科 教授 金子 聡
12	三重大学建築環境技術リサーチセンター	工学研究科 教授 永井 久也
13	三重大学複合的がん免疫療法センター	医学系研究科 教員 珠玖 洋
14	三重大学難病研究センター	医学系研究科 教授 ガバ・エステバン
15	三重大学海藻バイオリファイナー研究センター	生物資源学研究科 准教授 柴田 敏行
16	三重大学先天性心疾患・川崎病センター	医学部附属病院 教授 三谷 義英
17	三重大学スマートセルイノベーション研究センター	生物資源学研究科 教授 田丸 浩

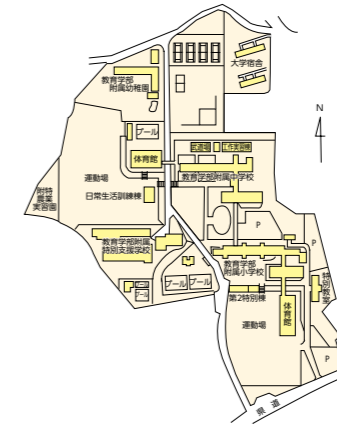
部局等配置図



〒514-8507
三重大学
 津市栗真町屋町1577
 TEL059-232-1211(代)

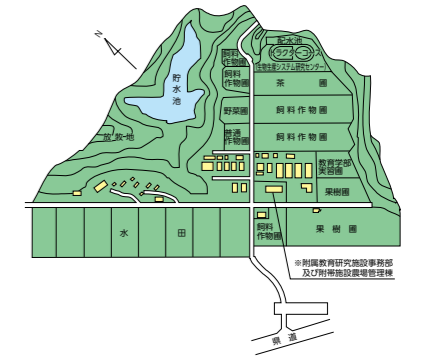
大学院医学系研究科・医学部
医学部附属病院
 津市江戸橋2丁目174
 TEL059-232-1111(代)

附属学校配置図



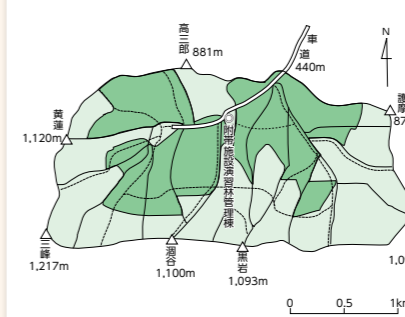
〒514-0062
 幼稚園 津市観音寺町523 TEL059-227-1711
 小学校 津市観音寺町359 TEL059-227-1295
 中学校 津市観音寺町471 TEL059-226-5281
 特別支援学校 津市観音寺町484 TEL059-226-5193

附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設農場配置図



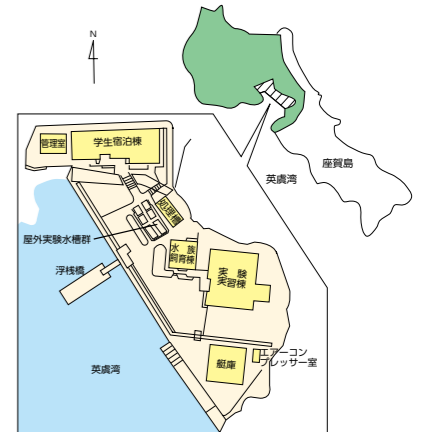
〒514-2221 津市高野尾町2072-2
 TEL059-230-0044

附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設演習林配置図



〒515-3532 津市美杉町川上2735
 TEL059-274-0135

附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設水産実験所配置図



〒517-0703 志摩市志摩町和具 4190-172
 TEL0599-85-4604

附属練習船勢水丸実習船基地

〒515-0001 松阪市大町町1819-18
 TEL 0598-51-0710
 勢水丸 TEL(松阪港) 0598-50-1066
 (自動船舶) 090-3022-8767
 (インマルサット) 001-010-870-764623655

位置図

三重県内



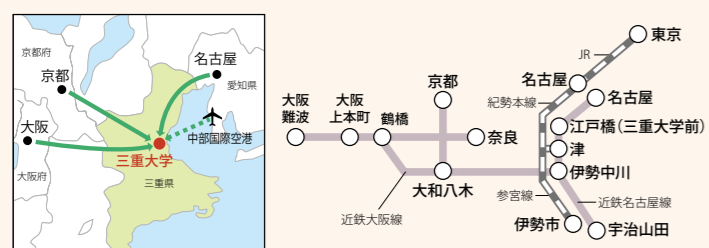
津市内



部局等所在地

部局等	所在地	電話番号
事務局		
教養教育院		
附属図書館		
地域イノベーション推進機構		
産学官連携リスクマネジメント室	〒514-8507 津市栗真町屋町1577	059-232-1211 (代)
知的財産統括室		
地域圏防災・減災研究センター		
先端科学研究支援センター		
植物機能ゲノミクス部門 (遺伝子実験施設)		
動物機能ゲノミクス部門 (動物実験施設)	〒514-8507 津市江戸橋2-174	059-232-1111 (代)
ヒト機能ゲノミクス部門	〒514-8507 津市栗真町屋町1577	059-232-1211 (代)
バイオインフォマティクス部門		
電子顕微鏡部門 (電子顕微鏡施設)	〒514-8507 津市江戸橋2-174	059-232-1111 (代)
放射線科学・安全管理学部門 (アイソトープ)		
オープンイノベーション施設		
機器分析部門、地域研究支援部門	〒514-8507 津市栗真町屋町1577	059-232-1211 (代)
卓越型研究施設		
キャンパス・インキュベータ		
地域拠点サテライト		
伊賀サテライト	伊賀研究拠点 〒518-0131 伊賀市ゆめが丘1-3-3 産学官連携地域産業創造センター「ゆめテクノ伊賀」内	0595-41-1071 (代)
	伊賀連携フィールド・国際忍者研究センター 〒518-0873 伊賀市上野丸之内500 ハイピア伊賀2階	0595-51-7154 059-231-9194 (人文・事務室)
東紀州サテライト	東紀州教育学舎 〒519-4394 熊野市木本町 1101-4 三重県立木本高等学校 旧寄宿舎 (南風寮)	0597-89-7015 059-231-9346 (教育・事務室)
	東紀州産業振興学舎 〒519-3602 尾鷲市天満浦161番地 東紀州産業振興学舎「天満荘」	059-231-9673 (生物資源・事務室)
伊勢志摩サテライト	海女研究センター 〒517-0025 鳥羽市浦村町大吉1731-68 「海の博物館」内	059-231-9194 (人文・事務室)
地域創生戦略企画室	〒514-8507 津市栗真町屋町1577	059-232-1211 (代)
四日市フロント	〒510-0075 四日市市安島1-3-18 北勢地域地場産業振興センター内 4階	059-353-8260
国際交流センター		
総合情報処理センター		
地域人材教育開発機構		
学生総合支援センター		
国際環境教育研究センター	〒514-8507 津市栗真町屋町1577	059-232-1211 (代)
アドミッションセンター		
保健管理センター		
人文学部		
教育学部		
附属幼稚園	〒514-0062 津市観音寺町523	059-227-1711
附属小学校	〒514-0062 津市観音寺町359	059-227-1295
附属中学校	〒514-0062 津市観音寺町471	059-226-5281
附属特別支援学校	〒514-0062 津市観音寺町484	059-226-5193
医学部		
附属病院	〒514-8507 津市江戸橋2-174	059-232-1111 (代)
工学部		
生物資源学部	〒514-8507 津市栗真町屋町1577	059-232-1211 (代)
附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター		
附属施設農場	〒514-2221 津市高野尾町2072-2	059-230-0044
附属施設演習林	〒515-3532 津市美杉町川上2735	059-274-0135
附属施設水産実験所	〒517-0703 志摩市志摩町和具4190-172	0599-85-4604
附属練習船勢丸		松阪港 0598-50-1066 自動船舶電話 090-3022-8767 インマルサット電話 001-010-870-764623655
実習船基地	〒515-0001 松阪市大口町1819-18	0598-51-0710
地域イノベーション学研究所	〒514-8507 津市栗真町屋町1577	059-232-1211 (代)

本学への交通案内



- 1. 津駅東口バスのりば「4番」から三重交通バスで、「白塚駅」(06系統)、「太陽の街」(40系統)、「三重病院」(51系統)、「サイエンスシティ」(52系統)、「豊里ネオポリス」(52系統)、「三行」(53系統)、「棕本」(52系統)、「高田高校前」(56系統) 行きで、「三重大学前」下車。(附属病院、医学部、工学部へは「大学病院前」下車。)
- 2. 津駅からタクシーで約10分
- 近鉄江戸橋駅(三重大学前)から徒歩で約15分
- 中部国際空港(セントレア)から津エアポートラインで津なぎさまちへ40分

- 1. 「津なぎさまち」から三重交通バスで「津駅前」まで約15分
- 2. 「津なぎさまち」からタクシーで約15分

近鉄電車「急行」で

名古屋より	近鉄名古屋駅	約60分	江戶橋	徒歩
京都・大阪より	伊勢中川駅	約15分	江戶橋	約15分

近鉄電車「特急」で

名古屋より	近鉄名古屋駅	約50分	津	バス
大阪より	大阪難波駅	約90分		
京都より	京都駅	約110分		

JR「快速みえ」で

名古屋より	JR名古屋駅	約50分	江戶橋	タクシー
			江戶橋	約10分





国立大学法人

三重大学

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577

TEL : 059-232-1211 (代)

平成30年6月 編集発行 / 三重大学企画総務部総務チーム広報室

